

| | | | | |
|-------------------------|--|---|------|----|
| 授業科目 | 社会活動実践【演習】 | | 開講時期 | 通年 |
| 担当教員 | 栗山 俊之・吉野 嘉高 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>目的：社会活動に参加することで、社会の現状や仕組みについての理解を深めるとともに、責任感やコミュニケーション能力など、現代社会に必要とされる資質や能力を身に付ける。</p> <p>概要：インターンシップのほか、ボランティア活動、海外研修などを社会活動としてとらえ、一定の時間これらを体験することが中心となる。また、事前、事後の学習を通して、現代社会における自らの社会活動の位相について、より深く、広く認識する。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>社会活動に参加する際の基本的なマナーを習得する</p> <p>それぞれの社会活動に参加する意義・目的について明確化し、それによって具体的に実践できる</p> <p>同じ活動に取り組む仲間たちと協働して社会活動に取り組むことができる</p> <p>行った社会活動の内容をまとめ、他者に伝えることができる</p> <p>自らの社会活動内容について振り返り、次回に活かすことができる</p> <p>上述のような学びを通して、社会活動に積極的に参加できる</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。</p> <p>この授業で行われるディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークは、基礎専門セミナー、専門セミナー、卒業セミナーなどで行われるそれらの基礎となるものです</p> <p>担当教員の中には仏教福祉活動・高校教員の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 全体オリエンテーション この講義の進め方 | 社会活動とは何か学修する | | |
| 第2回 | インターンシップ・ボランティアについて（1） | インターンシップ・ボランティアについて学修する | | |
| 第3回 | インターンシップ・ボランティアについて（2） | インターンシップ・ボランティアについて学修する | | |
| 第4回 | 社会活動の希望調査&ディスカッション | 希望した社会活動について、その内容について学修する | | |
| 第5回 | 各社会活動に応じたグループワーク（1） | 各社会活動に応じて与えられる課題に基づいて学修する | | |
| 第6回 | 各社会活動に応じたグループワーク（2） | 各社会活動に応じて与えられる課題に基づいて学修する | | |
| 第7回 | 各社会活動に応じたグループワーク（3） | 各社会活動に応じて与えられる課題に基づいて学修する | | |
| 第8回 | 社会活動実践 | 実際の社会活動を通して明らかになった課題について学修する | | |
| 第9回 | 社会活動実践 | 実際の社会活動を通して明らかになった課題について学修する | | |
| 第10回 | 社会活動実践 | 実際の社会活動を通して明らかになった課題について学修する | | |
| 第11回 | 社会活動実践プレゼンテーション準備としてのグループワーク | プレゼンテーションの分担部分について学修する | | |
| 第12回 | 社会活動実践プレゼンテーション資料完成 | 社会活動実践プレゼンテーション資料を完成させる | | |
| 第13回 | 社会活動実践プレゼンテーション（1） | 自らのプレゼンテーションを振り返る ・他者のプレゼンテーションを評価する | | |
| 第14回 | 社会活動実践プレゼンテーション（2） | 自らのプレゼンテーションを振り返る ・他者のプレゼンテーションを評価する | | |
| 第15回 | 社会活動実践プレゼンテーション（3） | 自らのプレゼンテーションを振り返る ・他者のプレゼンテーションを評価する | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 実施しない | | | |
| レポート | レポート試験 30％ | | | |
| 小テスト等 | 提出物 20％ | | | |
| 成果発表 | 社会実践活動プレゼンテーション 30％ | | | |
| 受講態度他 | 講義に取り組む姿勢 20％ | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>*インターンシップ・ボランティアなどに取り組んでおられる諸団体にご協力頂きながら実際の社会活動実践を行います。真摯に向き合ってください。</p> <p>*後期通年で15回の講義を行うところ、また、社会活動実践の種類によってクラス分けを行うところなどが、他とは異なるこの講義の特徴です。</p> <p>*それぞれの社会活動に関する情報等があれば、筑女ネットに掲載します。また、インターンシップ先、ボランティア先等により</p> | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 適宜紹介します | | | |
| オフィスアワー | 各教員・前期・後期によって異なります。担当教員の他の前期・後期のシラバスを参照してください | メールアドレス | | |

| | | | |
|--------------------------------|--|-----------------------------------|----|
| 授業科目 | 現代社会と地域デザイン【講義】 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 上村 真仁 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>環境問題の深刻化や価値観の多様化、人口減少社会の到来など現代社会の都市・地域を取り巻く環境は著しく変化しています。こうした現代社会の特徴を適切に把握し、地域創生を実現するためには、生活環境（空間）のデザインに加えて、社会関係（コミュニティ）のデザインがますます重要な意義を持つようになっていきます。</p> <p>本講義では、現代社会の諸特性についての基礎的な知識や将来動向への理解を深め、地方創生に求められる基本的な考え方や地域で暮らす人々を主体とした地域活性化の理念や実践事例を学ぶことで、地域デザインの必要性に対する理解を深めることを目的とする。また、地域資源論、地域プロジェクト演習やプロジェクトマネジメントなどより専門的な知識や技能を習得する意義への理解を深める。</p> | | |
| 到達目標 | <p>地方創生に関わる事例を通じて、地域を取り巻く課題、基礎的な用語や手法に関する知識を習得する。自ら地域事例を調べ、地域課題や解決策の特定、そのプロセスやポイントを抽出することができるようになる。全国の地域活性化事例において活用されている地域資源への関心を高め、その保全・利活用の意義を理解する。利害関係者の合意形成を構築する必要性や専門的知識や技能を習得する意義を理解する。</p> | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>この科目は民間シンクタンクや環境NGOでの官公庁の政策立案や地域での実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。</p> | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 ガイダンス | 授業のイメージの共有 地域デザインとは何か？ | RESAS地域経済分析システムへの登録をしてください。 | |
| 第2回 現代社会の諸特性 | その1 地球環境問題の深刻化 第1回小テスト | 地球環境問題と自分の暮らしの関わりについて調べてきてください。 | |
| 第3回 現代社会の諸特性 | その2 人口減少社会 第1回現社バトル 3名 | 人口減少が地域の暮らしに与える影響について調べてきてください。 | |
| 第4回 現代社会の諸特性 | その3 グローバル社会 第2回小テスト | グローバル化が私たちの暮らしに与えた影響を調べてきてください。 | |
| 第5回 地域デザイン手法 | その1 安全・安心まちづくり 第2回現社バトル 3名 | 震災復興のまちづくり事例について調べてきてください。 | |
| 第6回 地域デザイン手法 | その2 景観まちづくり 第3回現社バトル 3名 | 景観保全のまちづくり事例について調べてきてください。 | |
| 第7回 地域デザイン手法 | その3 人口減少とまちづくり 第3回小テスト | 人口減少に対応したまちづくり事例について調べてきてください。 | |
| 第8回 地域デザイン手法 | その4 地球環境時代のまちづくり 第4回現社バトル 3名 | 配布資料の指定ページを読んできてください。 | |
| 第9回 地域デザイン手法 | その5 地域プロジェクトの進め方 第4回小テスト | 配布資料の指定ページを読んできてください。 | |
| 第10回 事例紹介 | 石垣島白保のサンゴ礁と調和した村づくり 第5回小テスト | 太宰府市について調べてきてください。 | |
| 第11回 グループワーク | その1 町歩き計画の策定 | 太宰府天満宮の門前町の町歩きのテーマと実施計画をまとめてください。 | |
| 第12回 グループワーク | その2 門前町町歩き | グループで町歩きの結果を取りまとめてきてください。 | |
| 第13回 グループワーク | その3 発表資料の作成 | 現地調査の成果をグループ毎にまとめて下さい。 | |
| 第14回 グループ発表 | 門前町の課題とその改善に向けたデザイン | 発表資料を作成し、発表の練習をしてきてください。 | |
| 第15回 | まとめと振り返り | 振り返りを行ってください。 | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | なし | | |
| レポート | なし | | |
| 小テスト等 | 30%（基礎的な用語や手法、事例について的小テストを授業中に5回程度実施する） | | |
| 成果発表 | 40%（プレゼンテーション資料 15%、発表10%、相互評価15%）により評価する | | |
| 受講態度他 | 30% グループワーク等への参加の積極性により評価 | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>本科目では、受講生の中の希望者に、地域デザインに関連したキーワードについて調べ、プレゼンテーションを実施してもらいます（「現社バトル」と呼ぶ）。現社バトル発表者にはその出来栄により加点を行う。また、本講義ではグループワークを行います。グループのメンバーに迷惑をかけないよう、積極的に参加するようにしてください。グループワーク実施じ、発表時の欠席は減点となります。</p> | | |
| 教科書 | 担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。 | | |
| 指定図書 | <p>1. 調査されるといふ迷惑「フィールドに出る前に読んでおく本」宮本常一、安溪遊地 みずのわ出版</p> <p>2. コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる 山崎亮 学芸出版社</p> <p>3. プラザの環境都市を創った日本人—山村浩一物語</p> | | |
| 参考図書 | <p>服部圭郎 未来社</p> <p>4. 若者のためのまちづくり 服部 圭郎 岩波ジュニア新書</p> <p>課題図書 5. 社会学をはじめよう 吉本 折郎 岩波ジュニア新書</p> | | |
| オフィスアワー | 月曜日2限、3限、4限、水曜日4限 | メールアドレス | |

| | | | | |
|-------------------------|--|-------------------------------------|------|----|
| 授業科目 | NPO論【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 上村 真仁 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>現代社会における地域社会の課題を解決するために行政や民間企業に加えて市民活動組織としての「NPO（非営利組織）」の役割がますます重要となっています。また、人口減少社会や価値観の多様化、社会貢献志向の高まりの中で、充実した「豊かな生き方」の選択肢の一つとして「NPO」が位置付けられるようになってきました。本講義では、市民が参画する社会創造の担い手である「NPO」について理解を深め、その活動において求められる基礎的な知識と志を身につけることを目的としています。具体的には、「NPO」の社会的な背景、基本的な活動理念や組織設立、運営の仕組み、資金調達の方法などを学ぶとともに、現場での実践するNPO団体のゲストスピーカーをお招きし生の声を聞くことで、「NPO」の今日的な意義や「NPO」活動のやりがいなどを伺います。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>現代社会における「NPO」の意義を説明することが出来る。 社会に関わる多様なセクターの機能や「NPO」の社会的な役割に関する知識を身につける。 NPOの意義や社会的な役割について体験やグループでの議論を通じて自身の考えをまとめ授業で発表することが出来る。 身近なNPO活動への理解が促進され、実際に市民活動へ参加する機会を得ることが出来る。</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 この科目は民間シンクタンクや環境NGOでの官公庁の政策立案や地域での実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | NPO論について 授業の進め方、NPOとは何か？ | シラバスを読む。 | | |
| 第2回 | NPOが求められるようになった社会背景 | 身近なNPO団体として何があるかを調べてきてください。 | | |
| 第3回 | NPO法の成立について | インターネット等で関心のあるNPO法人の設立趣旨を調べてきてください。 | | |
| 第4回 | NPOをどのように作るか？ | インターネット等で関心のあるNPO法人の定款を調べ読んできてください。 | | |
| 第5回 | NPOの設立事例 | 福岡県下でのNPO設置申請の手続きについて調べてきてください。 | | |
| 第6回 | NPO活動の実際 その1 太宰府近郊の環境系NPOの取り組み | ゲストへの質問項目をそれぞれ考えてきてください。 | | |
| 第7回 | 市民活動の事業化について | 自分が取り組んでみたい非営利活動のテーマを考えてきてください。 | | |
| 第8回 | NPOを運営していくためには 求められる人材とは | NPO法人の求人情報を調べてきてください。 | | |
| 第9回 | NPO活動と資金 | NPO法人を対象とした助成金の申請条件を調べてきてください。 | | |
| 第10回 | NPO活動の実際 その2 太宰府近郊のまちづくり系NPOの取り組み | ゲストへの質問項目をそれぞれ考えてきてください。 | | |
| 第11回 | NPOの設立 グループワーク その1 | 太宰府門前町で学生が実施可能な社会貢献事業を考えてきてください。 | | |
| 第12回 | NPOの収益事業の検討 グループワーク その2 | 筑紫女学園大学や学生のリソースを活用した事業を考えてきてください。 | | |
| 第13回 | 助成金の申請書の作成 グループワーク その3 | 第9回で調べた助成金への申請事業を考えてきてください。 | | |
| 第14回 | グループワークの発表会 | 設立趣旨、定款、収益事業、活動効果など発表資料を作成してきてください。 | | |
| 第15回 | まとめと振り返り | 事業の振り返りをしてきてください。 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | なし | | | |
| 小テスト等 | 30% 授業内容の理解や自分の考えを問う小テストを5回実施する。 | | | |
| 成果発表 | 合計45% グループでのNPO設立企画 15%、助成金申請書 20%、グループでのNPO企画発表資料 10%。 | | | |
| 受講態度他 | 25% グループワークへの参加や貢献度をもとに評価する。 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 本科目では、NPOの概説や事例から社会課題の解決におけるNPOの役割と有効性を理解した上で、グループワークによる学生NPOの設立企画を行います。積極的にグループでのディスカッションに参加しグループのメンバーに迷惑をかけるようにして下さい。 | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | 早瀬昇・水谷綾・永井美佳・岡村こず恵 他 「テキスト市民活動論」 大阪ボランティア協会 知っておきたいNPO 1,2,3 日本NPOセンター 市民社会創造の10年 日本NPOセンター ぎょうせい | | | |
| 参考図書 | 授業中に紹介する | | | |
| オフィスアワー | 月曜日 3限、4限、水曜日 3限、4限 | メールアドレス | | |

| | | | |
|-------------------------|--|-----------------------------------|----|
| 授業科目 | 地域デザイン【講義】 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 上村 真仁 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>環境問題の深刻化や価値観の多様化、人口減少社会の到来など都市や地域を取り巻く環境変化が著しい現代社会において、豊かな地域社会を実現するためには、生活環境（空間）のデザインに加えて、社会関係（コミュニティ）のデザインが重要な意義を持つようになってきている。</p> <p>本講義では、豊かな暮らしを実現するために取り組まれてきた都市、地域デザインの考え方とともに、地域住民を主体としたまちづくりの理念や実践事例を学ぶことで、望ましい地域像を構想するための価値観を醸成することを目的とする。また、地域デザイン演習に向けて、地域主体のまちづくりを進めるために重要となる地域調査、分析評価、多様な関係者の合意形成、地域の将来像を具体化するための手法に関する基礎的知識を習得する。</p> | | |
| 到達目標 | <p>都市や地域の活性化に関するまちづくり事例を通じて、現状での課題や基礎的な用語や手法などに関する知識を習得する。各地で実施されている地域デザイン事例を調べ、何が地域の課題で、その解決のためにどのようなプロセスで、どのように対策を講じ、その結果、地域がどう変わったかを分析・評価できるようにする。全国の地域活性化事例において活用されている地域資源を体系的に把握し、その利活用の手法について理解する。利害関係者の合意形成を構築する必要性について理解を深めるとともに、合意を促すための手法を習得する。</p> | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は民間シンクタンクや環境NGOでの官公庁の政策立案や地域での実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。</p> | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | 授業のイメージの共有 まちづくりとは何か？ | 課題図書の中から1冊を選び読んでください。 | |
| 第2回 | プランニングするということ まちづくりの歴史 | 課題図書を読んでください。 | |
| 第3回 | まちづくりと合意形成 | 課題図書の中から1冊を選び読んだ内容をもとに発表資料を作成する | |
| 第4回 | まちづくりの進め方 | 発表の準備（PP作成、ハンドアウト） | |
| 第5回 | まちづくり事例 その1 安全・安心まちづくり 課題図書発表 1 | 配布資料を読んできてください。発表の準備（PP作成、ハンドアウト） | |
| 第6回 | まちづくり事例 その2 景観まちづくり 課題図書発表 2 | 配布資料を読んできてください。発表の準備（PP作成、ハンドアウト） | |
| 第7回 | まちづくり事例 その3 中心市街地活性化 課題図書発表 3 | 配布資料を読んできてください。 | |
| 第8回 | まちづくり事例 その4 地球環境時代のまちづくり 課題図書発表 4 | 配布資料を読んできてください。 | |
| 第9回 | 太宰府市歴史的風致維持向上計画について（太宰府天満宮門前6町まちづくり協議会の取り組み） | 太宰府参道周辺の歴史的な景観について下見をしてきてください。 | |
| 第10回 | グループワーク その1 門前町の暮らしに関するヒアリング調査 | 門前町の人々に聞きたいことを考えてきてください。 | |
| 第11回 | グループワーク その2 門前町の資源の発掘（現地調査） | 発見した資源について調べてきてください。 | |
| 第12回 | グループワーク その3 門前町調査の取りまとめ（地図の作成） | グループで地図を作成してきてください。 | |
| 第13回 | グループワーク その4 地図を使った町歩き（地図発表） | 現地調査の成果をグループ毎に取りまとめてきてください。 | |
| 第14回 | グループ発表 その5 まち歩きガイドの実施 | 自分たちの作った地図を作ってガイドができるようにして来てください。 | |
| 第15回 | まとめと振り返り | 振り返りを行ってください。 | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | なし | | |
| レポート | なし | | |
| 小テスト等 | なし | | |
| 成果発表 | 90％（課題図書についての発表 30％ 資源リストの作成 20％ マップ作成 20％ まち歩きガイド20％）により評価する | | |
| 受講態度他 | 10％ グループワーク等への参加の積極性により評価 | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>本科目では、まちづくりに関連した課題図書を一人1冊読んだ上で、その内容について授業で発表をしていただきます。また、授業の中でグループでの太宰府の門前町での調査を行ない、地域マップを作成してもらいます。グループのメンバーに迷惑をかけないように、積極的に参加するようにしてください。授業の一部を小鳥居小路の町家で実施します。</p> | | |
| 教科書 | 担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。 | | |
| 指定図書 | <p>1. 調査されるという迷惑「フィールドに出る前に読んでおく本」宮本常一、安溪遊地 みずのわ出版</p> <p>2. コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる 山崎亮 学芸出版社</p> <p>3. ブラジルの環境都市を創った日本人—山村浩一と物語</p> | | |
| 参考図書 | <p>服部圭郎 未来社</p> <p>4. 若者のためのまちづくり 服部 圭郎 岩波ジュニア新書</p> <p>課題図書5 地元の学をほじめよう 吉木 折郎 岩波ジュニア新書</p> | | |
| オフィスアワー | 月曜日2限、3限、4限、水曜日4限 | メールアドレス | |

| | | | | |
|-------------------------|--|---------------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 地域デザイン演習【演習】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 上村 真仁 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 地域デザイン演習は、人口減少社会における地域資源を活用した内発的な地域づくりを進めるためのデザインプロセスへの理解を深めるとともに、より良い地域社会の実現のために必要となる地域デザインの知識や技術を演習形式で体験し、習得することを目的としています。本演習では、前半に太宰府地域資源マップ（前年度「地域デザイン」で制作）をもとに、太宰府門前町を散策し、近隣住民への聞き取りなどを実施することで、散策ルートづくりやガイドプログラムの検討を行います。また、後半ではグループ太宰府門前町でのガイドツアーを企画して、門前町の方々やボランティアガイドの実践者の方々を対象としたガイドツアーを実施し、参加者からのフィードバックを得ることで、地域資源の利活用における課題等についての理解を深めます。また、留学生等の協力を得ながら門前町ガイドマップの多言語化を行います。 | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者間でのロールプレイや模擬体験により地域デザインを構想する手法、手順などを身につける。 2. 地域での利害関係者のニーズ把握のための調査企画を立てられるようになる。 3. 調査計画に基づき地域住民との良好なコミュニケーションにより必要な情報を収集できるようになる。 4. 地域ニーズを適切に把握し、地域資源の利活用方針に盛り込むことができるようになる。 5. 自分たちの調べたことをもとに散策ルートを案内することができるようになる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は民間シンクタンクや環境NGOでの官公庁の政策立案や地域での実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | オリエンテーション 地域デザイン演習の進め方 | 地域デザイン演習でやりたいこと、関心のあるテーマを考えてきてください。 | | |
| 第2回 | まち歩き企画（地域散策マップの活用：小鳥居小路杉村家住宅で開催） | 太宰府門前町の魅力的な資源を3つ調べてきてください。 | | |
| 第3回 | まち歩きの実践（資源散策マップをもとにグループでまちを歩く：小鳥居小路杉村家住宅で開催） | 体験を通じて考えたことをワークシートに記入してきてください。 | | |
| 第4回 | 事例研究：水郷の町 柳川のまちづくり（映像視聴とグループディスカッション） | グループで対象地域の背景情報を調べてきてください。 | | |
| 第5回 | フィールド視察 その1 柳川掘割再生の歴史と水郷の町めぐり | グループで調査票（質問シート）を作成して来てください。 | | |
| 第6回 | フィールド調査 その2 柳川の周遊ルートの探索 | 調査テーマ設定と下調べをしてきてください。 | | |
| 第7回 | フィールド視察取りまとめ発表 プレゼンテーション | 現地調査内容を取りまとめてきてください。 | | |
| 第8回 | フィールド演習 課題：太宰府門前町の散策ガイドプログラムの作成 課題説明 まち歩きガイドの心得：ガイドツアーへの参加：小鳥居小路杉村家住宅で開催 | 自分たちがガイドしたいものを調べて来てください。 | | |
| 第9回 | 現地取材 その1（散策ルート近隣の方々の思い） | 自分たちがガイドをしたいものなどを考えてきてください。 | | |
| 第10回 | 現地取材 その2（散策ルート近隣の方々の思い） | 調査対象、項目などを検討し、アポイントを取っておく。 | | |
| 第11回 | 現地取材 その3（まちづくり協議会の方々の思い） | 調査対象、項目などを検討し、アポイントを取っておく。 | | |
| 第12回 | グループワーク その1 散策ガイドプログラムの作成 | 自分たちがガイドを行うためのルート、解説内容をまとめてくる。 | | |
| 第13回 | グループワーク その2 ガイドの練習 | ガイド実施した振り返りをまとめて来てください。 | | |
| 第14回 | グループワーク その3 ガイドの実施 | 実際に考えたルートでガイドできるようにしてきてください。 | | |
| 第15回 | まとめと振り返り | 相互評価によるフィードバックを踏まえ修正したデータを提出してきてください。 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | なし | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 70％（散策ルート 20％、取材等の内容・ヒアリング記録 20％、ガイドプログラム内容 30％） | | | |
| 受講態度他 | 30％ フィールドワークへの参加・貢献度により評価する。 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 本講義は、現場での調査と授業外学習をグループで実施しなければより良い成果が得られません。グループのメンバーや地域の方々に迷惑をかけないように、各自が責任を持って授業に参加してください。授業の一部を小鳥居小路の町家で実施します。また、地域づくり事例視察として福岡県柳川市へのフィールドトリップ（5月18日（土）講義2回分とする。西鉄柳川駅集合・解散、昼食グループ毎600円～）を実施します。土曜の振替授業への参加、交通費負担が発生することを了承の上、受講してください。 | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 授業の中で適宜紹介します。 | | | |
| オフィスアワー | 月曜日 3限、4限、水曜日 3限、4限 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|-----------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 地域環境論【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 上村 真仁 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>私たちの暮らしは生物多様性を基盤とする生態系サービスに支えられている。大量生産、大量消費、大量廃棄を特徴とする経済優先の社会は、資源やエネルギーの過剰な利用により、自然環境の破壊や自然資源の枯渇、生物多様性の減少を引き起こしてきた。こうした生態系サービスの劣化は、暮らしの豊かさを損なう一因ともいえる。本講義では、「持続可能な開発目標」が2030年までに解決すべき17の項目に掲げた課題を理解するとともに、その解決に向けた地域レベルでの生物多様性の保全と地域活性化の両立に取り組む事例を通して、未来の世代にとっても暮らしやすい持続可能な地域を創造するための基本的な考え方を学び、次代の地域を担う人材に求められる価値観の醸成を図ることを目的とする。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>都市・地域を取り巻く環境問題について理解し、その要因について説明することが出来るようになる。 身近な環境問題に関心を持ち、情報収集が出来るようになる。 地域レベルでの生物多様性保全の多様なアプローチを理解し、持続可能な社会の将来像を構想することが出来る。 環境と地域をテーマに、グループディスカッションにおいて、自分の考えを表明することが出来る。 他の人の意見等を踏まえて、自分の意見を見直し、レポートに取りまとめることが出来る。</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) ②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 この科目は民間シンクタンクや環境NGOでの官公庁の政策立案や地域での実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 地域環境論について 授業の進め方、環境問題の認識チェック | 地域の暮らしと関わりの深い環境問題について1つ調べて来てください。 | | |
| 第2回 | 地域環境論のベースとなる考え方 持続可能な地域づくりとは | エコロジカルフットプリントについて調べて来てください。 | | |
| 第3回 | 柳川の掘割再生について 環境悪化と市民による再生（映像学習） | 配布資料の読み込み、レジュメ作成 | | |
| 第4回 | フィールド視察（柳川） | 視察結果の取りまとめ | | |
| 第5回 | フィールド調査（柳川） | 調査結果をまとめてきてください。 | | |
| 第6回 | グループ発表（柳川フィールドワークの結果） | パワーポイントによるプレゼンの準備をして来てください。 | | |
| 第7回 | なぜ環境保全はうまくいかないか？ 地域に根ざした環境保全とは | 事前に配布する論考を読んで考えをまとめてきてください。 | | |
| 第8回 | 地域レベルでの生物多様性保全 事例1 コミュニティによるサンゴ礁の保全 | 配布資料の読み込み、レジュメ作成 | | |
| 第9回 | 地域レベルでの生物多様性保全 事例2 多様な主体が連携した里海づくり | 配布資料の読み込み、レジュメ作成 | | |
| 第10回 | 地域レベルでの生物多様性保全 事例3 世界自然遺産の登録による保全 | 配布資料の読み込み、レジュメ作成 | | |
| 第11回 | 地域レベルでの生物多様性保全 事例4 生き物ブランドによる保全 | 配布資料の読み込み、レジュメ作成 | | |
| 第12回 | 地域レベルでの生物多様性の保全を促進する機能 地域のカタリスト | 配布資料の読み込み、レジュメ作成 | | |
| 第13回 | 環境保全と地域 順応的なガバナンスの必要性 | 配布資料の読み込み、レジュメ作成 | | |
| 第14回 | グループディスカッション（生物多様性の保全のために学生ができること） 情報収集と議論 | グループで、パワーポイントによる発表資料を作成してきてください。 | | |
| 第15回 | グループ発表 まとめ 地域環境保全の必要性 | 期末レポートの作成 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 40% 「身近な環境を住民が守ることの意義」に関するレポート 1200文字 | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | グループ発表 30%（フィールドワーク、保全策提案）、個人ワークの発表（希望者 加点） | | | |
| 受講態度他 | 30% グループワークへの貢献度、フィールドワークへの参加で評価 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>対馬市と本学のインターンシップ覚書に基づく、対馬での長期インターンシップ（夏季休暇中）を希望する学生は本科目を積極的に受講することが望ましい。本科目では、グループワークを予定している。グループメンバーに迷惑とならないよう、積極的な議論への参加、出席をするように。また、地域づくりの現場の視察（福岡県内）を計画している。交通費等の詳細については第1回の授業までに概算を提示する予定。</p> | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | <p>地域環境学、佐藤哲／菊池直樹 編、東京大学出版会 なぜ環境保全はうまくいかないか、宮内泰介 編、新泉社 どうすれば環境保全はうまくいくのか、現場から考える「順応的ガバナンス」の進め方、宮内泰介 編、新泉社</p> | | | |
| 参考図書 | フィールドサイエンティスト、佐藤哲、東京大学出版会 | | | |
| オフィスアワー | 月曜日 3限、4限、水曜日 3限、4限 | メールアドレス | | |

| | | | |
|-------------------------|--|-------------------------------------|----|
| 授業科目 | 現代社会と地域【講義】 | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 上村 真仁 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 現代社会は、人口減少社会、グローバル化、情報化、都市化社会、地球環境の世紀など様々な特徴で語られている。本講義では、私たちの生活の基盤となる「地域」が、時代の変化とともにどのように変遷を遂げてきたかについて理解するとともに、地方創生のための施策を構想するために必要となる基本的な考え方を学ぶことを目的とする。具体的な地域として佐賀県鹿島市を取り上げて、映像資料の視聴や現地でのフィールド調査をもとに、高度経済成長やバブル期などの経済開発による暮らしの変化とそれらに対する地域の人々の反応、地域の人々の思いを知り、人口減少社会を見据えた今後の展開について考察を加えることとする。 | | |
| 到達目標 | 高度経済成長前後の地域での暮らしの変化について、その要因を理解し、説明することが出来るようになる。 現代社会の特徴とその地域に与える影響について、メリット、デメリットを考え、発表することが出来る。 RESAS地域経済分析システムを使用した地域分析ができるようになる。 自身の関心のあるテーマについて、地域の暮らしとの関連性について具体的に述べるとともに、より豊かな暮らしを実現するために必要となる対策について提案することが出来るようになる。 | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 この科目は民間シンクタンクや環境NGOでの官公庁の政策立案や地域での実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | オリエンテーション 現代社会と地域の進め方 | 自分の出身地域の自慢できるものを調べてきてください。 | |
| 第2回 | 戦後の地域開発の変遷（全国総合開発計画から国土形成計画） | 高度経済成長期について、そのメリット、デメリットを調べてきてください。 | |
| 第3回 | 地方消滅論について「人口推移と将来推計からみる地域社会」 | 自分の出身自治体の現在の人口と将来の推計人口を調べてきてください。 | |
| 第4回 | 地方創生に向けた取り組み 総合戦略とは | 自分の出身自治体の地域戦略を調べてきてください。 | |
| 第5回 | RESAS地域経済分析システムについて 地域データ分析をしてみよう | RESAS地域経済分析システムへの登録を行ってきてください。 | |
| 第6回 | 事例分析：映像視聴 佐賀県鹿島市・有明海 | RESAS地域経済分析システムで佐賀県鹿島市の概要を調べてきてください | |
| 第7回 | 佐賀県鹿島市フィールドワーク その1 講義：歴史的町並みを活かした地域づくり | フィールドノートの作成 | |
| 第8回 | 佐賀県鹿島市フィールドワーク その2 視察：歴史的町並みの現地視察 | フィールドノートの作成 | |
| 第9回 | 佐賀県鹿島市フィールドワーク その3 交流：商工会との意見交換会 | 地方の担い手の方々へ聞いてみたいことを考えて来て下さい。 | |
| 第10回 | 佐賀県鹿島市フィールドワーク その4 実践：ガタリンピック運営支援 | フィールドワークとデータ分析を比較して考えたことをまとめてきて下さい。 | |
| 第11回 | 農山村の可能性 田園回帰と地域づくり | 地域づくりの可能性について考えて来て下さい。 | |
| 第12回 | 鹿島まちづくりへの提案 その1 グループワーク データ解析 | RESAS地域経済分析システムを使って地域分析をしてきて下さい。 | |
| 第13回 | 鹿島まちづくりへの提案 その2 グループワーク ディスカッション | まちづくりへの提案内容を各自で考えてきて下さい。 | |
| 第14回 | 鹿島まちづくりへの提案 その3 グループ発表 | プレゼン資料を作成してきて下さい。 | |
| 第15回 | まとめ 地域で生きるための知恵 | 期末レポートの作成 | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | なし | | |
| レポート | 期末レポート20% フィールドワークを通して今後の地域社会のあるべき姿について自分の考えを述べる。 | | |
| 小テスト等 | なし | | |
| 成果発表 | 40% 授業内でのグループワーク・プレゼンテーションを評価する。 | | |
| 受講態度他 | 40% フィールドワークへの参加・貢献度で評価する。 | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 本科目では、学外講義として佐賀県鹿島市へのフィールドとリップ6月1日（土）、2日（日）一泊二日（費用3000円程度）へのフィールドワークへの参加を必須とします（講義4回分として実施します）。また、授業外学修としてRESAS地域経済分析システムを使った地域分析、提案作成などにも取り組んでもらいます。 | | |
| 教科書 | 担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。 | | |
| 指定図書 | 里山資本主義 藻谷浩介 角川oneテーマ21、里海資本論 井上恭介 角川新書 | | |
| 参考図書 | 人口減少社会という希望 広井良典 朝日新聞出版、マクドナルド化と日本 G. リッツァ、丸山哲央 ミネルヴァ書房 | | |
| オフィスアワー | 月曜日 3限、4限、水曜日 3限、4限 | メールアドレス | |

| | | | |
|-------------------------|---|-------------------------------------|----|
| 授業科目 | エコツーリズム論【講義】 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 上村 真仁 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 世界の成長産業として注目されている観光業。中国や韓国など近隣諸国からのインバウンドの増加など地域社会を考える上で必要不可欠な課題です。我が国も観光立国を目指して様々な取り組みが進められていますが、その中で注目されているのがニューツーリズムと言われる体験型・着地型観光の取り組みです。本講義では、中でも自然地域における地方創生と自然観光資源の保全のために重要と考えられるエコツーリズムに着目し、取り組みの背景や理念、各地の事例を通して、その現状と課題を学びます。また、講義では、世界自然遺産やユネスコエコパークなどの保全と地域活性化に関わる類似の地域認証についても考察を行います。講義の後半では、太宰府近隣の自然・文化遺産地域でのフィールドワークを行い、持続可能な地域の実現に資する観光地域づくりのあり方について検討を行います。 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・成熟社会における持続可能な産業としてのツーリズムの基礎的な知見を身につける。 ・地域の自然資源を持続可能に利用するためのエコツーリズムの基本的な要件についての知識を得る。 ・エコツーリズムの基準について考え、地域の取り組みを評価し、改善策を提案できるようになる。 ・具体的な地域を対象にフィールドワークを行い、エコツーリズムの理念に沿った持続可能な観光について提案をおこなう。 | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 この科目は民間シンクタンクや環境NGOでの官公庁の政策立案や地域での実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | エコツーリズム論の射程 エコツーリズムとは何か？ | シラバスに目を通して授業への質問等を考えてきてください。 | |
| 第2回 | エコツーリズムとは | 太宰府近郊の体験型観光プログラムで参加してみたいものを調べてくること。 | |
| 第3回 | エコツーリズム推進法とは | エコツーリズム推進協議会のうち1つを選んで概要をまとめる。 | |
| 第4回 | 日本のエコツーリズム先進事例 | エコツーリズム大賞のうち、関心のある地区を1つ選びその内容を調べてくる | |
| 第5回 | ジオツーリズム（ジオパーク）とエコツーリズム | ジオパーク事例地を1つ取り上げて調べてくる。 | |
| 第6回 | 世界自然遺産とエコツーリズム（映像視聴） | 海外のエコツーリズム事例地を1つ取り上げてその概要を調べてくる。 | |
| 第7回 | ユネスコエコパークとエコツーリズム | エコパークの事例を1つ取り上げてその概要を調べてくる。 | |
| 第8回 | 世界農業遺産とエコツーリズム | 世界農業遺産指定地域の1つ取り上げてその概要を調べてくる。 | |
| 第9回 | 観光圏整備計画 | 観光圏整備計画策定地域を1つ取り上げその概要を調べてくる。 | |
| 第10回 | フィールドトリップ 筑紫野市御笠地区の自然と文化 その1計画づくり | 宝満山（御笠地区）の歴史や文化、史跡などについて調べてくる。 | |
| 第11回 | フィールドトリップ 筑紫野市御笠地区の自然と文化 その2フィールドワーク | フィールドノートを作成する。 | |
| 第12回 | フィールドトリップ 筑紫野市御笠地区の自然と文化 その3フィールドワーク | フィールドワークの結果をまとめる。 | |
| 第13回 | グループワーク 御笠地区での地域資源の保全と活用方策の検討 | エコツーリズム化の方策を検討していく。 | |
| 第14回 | グループワーク 発表会 企画したツアーの実施（バーチャルでの実施） | 企画内容の提案（御笠コミュニティセンター） | |
| 第15回 | まとめ 地域にとって望ましい観光のあり方とは | 期末レポートの作成 | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | なし | | |
| レポート | 40% 地域にとって望ましい観光のあり方について授業を通じて学んだことを盛り込みレポートを作成する | | |
| 小テスト等 | なし | | |
| 成果発表 | 30% 各回でのエコツーリズム事例発表 | | |
| 受講態度他 | 30% 授業でのディスカッションおよびフィールドトリップへの参加状況で評価 | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | この講義では、前半の毎回参加者からの事例報告を行い、それを元に議論を進めます。また、身近な自然や文化の持続的な利用について考えるために筑紫野市御笠地区でのフィールドトリップを実施します（講義2回分を予定しています。参加が必須となります。） | | |
| 教科書 | 地域（エコツーリズム）コーディネーターテキスト（Eco-0kinawa）授業で配布します。 | | |
| 指定図書 | 地域資源を守っていかすエコツーリズム 敷田麻美、森重昌之 講談社 エコツーリズムを学ぶ人のために 真板昭夫、石森秀三、梅津ゆりえ 世界思想社 | | |
| 参考図書 | エコツーリズム 環境省編 日本交通公社 | | |
| オフィスアワー | 月曜日2限、3限、4限、水曜日4限 | メールアドレス | |

| | | | | |
|-------------------------|--|---------------------------|-----------|----|
| 授業科目 | インターンシップ I 【演習】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 篠崎 真美 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>授業の目的は、産業・企業・競合他社分析能力の知識を身につけ、ビジネス現場でのインターン実践にむけて必要なビジネスコミュニケーションの応用力を身につけることである。社会で業務にあたるには「自己管理能力」、「チームワーク力」、「コミュニケーション・スキル」、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」、「ファシリテーション力」が必要とされる。2年次「ビジネスコミュニケーション」で学び実践してきたこれらの能力を発展・応用することを目指す。</p> <p>TBL (Team-Based Learning) による「デザインシンキング」の実践で、問題解決のためのアイデアを柔軟に発想し創出できる「イノベーション力」と物事を筋道立てて可視化できるPP作成力と発表における表現力を養う。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>①産業・企業・競合他社分析能力を身につける。 ②ビジネススキルとして「自己管理能力」、「チームワーク力」、「コミュニケーション・スキル」、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」、「ファシリテーション力」を熟練し、修得する。 ③アイデアを柔軟に発想し創出できる「イノベーション力」を養う ④常に「論理的思考能力」をもち、客観的な根拠をもとに系統立てて発言・議論することができる ⑤多様な価値観を尊重し、他者と協働して（「チームワーク力」「課題探求力」）、問題解決課題の成果を出すことができる（「問題解決力」）。 ⑥自己のキャリアを具体的に構想できる「キャリアを構想する力」を修得する。</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 *2年次「ビジネスコミュニケーション」単位取得必修</p> <p>この科目は日系製造業・コンサル業企業での人事労務実務経験のある教員が担当しており、『授業の目的と概要』記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回目 | ガイダンス | 復習：研修派遣先希望先（第1～3希望）を決めてくる | | |
| 第2回目 | ビジネスマナー（応用） | 【希望調査（第1～3希望/志望動機）】 | | |
| 第3回目 | チームビルディング・ファシリテーション（応用） | 【研修・派遣先発表】 | | |
| 第4回目 | エントリーシート（ES）書類作成 | 【「紹介票」「誓約書」】 | | |
| 第5回目 | 面接のロールプレー（応用） | 【研修・派遣先との面談】 | | |
| 第6回目 | 電話のロールプレー（応用） | | | |
| 第7回目 | （演習）産業分析 | 研修・派遣先機関 | [グループワーク] | |
| 第8回目 | （演習）産業分析 | | [発表①] | |
| 第9回目 | （演習）企業分析 | 研修・派遣先機関 | [グループワーク] | |
| 第10回目 | （演習）企業分析 | | [発表②] | |
| 第11回目 | （演習）競合他社分析 | 研修・派遣先機関 | [グループワーク] | |
| 第12回目 | （演習）競合他社分析 | | [発表③] | |
| 第13回目 | 産業分析・企業分析・競合他社分析 | | [発表④] | |
| 第14回目 | 産業分析・企業分析・競合他社分析 | | [発表④] | |
| 第15回目 | 産業分析・企業分析・競合他社分析 | | [発表④] | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 10% 研修・派遣先提出資料「紹介票」の完成度 | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 50% 発表（発表の仕方、発表の内容、PP完成度） | | | |
| 受講態度他 | 40% ①25% 積極的参加：グループワークでの討議貢献度、②15% 講義コメント・質問：毎回講義終了時提出*次回の講義の始めに回答 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす） やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで理由とともに連絡すること 交通機関の遅延の場合は、遅延証明に学籍番号、名前を書いて、講義終了時に提出すること 病欠で病院の証明がある場合は、学生サポート班発行の欠席届を翌週に提出した場合は考慮する 筑女ネットで通知、出席管理、資料提出、フィードバック指導を行い、利用するため、常時アクセスすること | | | |
| 教科書 | 富士通エフ・オー・エム株式会社『ビジネスコミュニケーションスキルを磨く10のステップ<改訂版>』FOM出版（2014） *「ビジネスコミュニケーション」科目の教科書で前年度使用した教科書です。 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 随時配布します。 | | | |
| オフィスアワー | 火曜日4講目 *事前にメールでアポイントをとってください。 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|--------------------------------------|------|----|
| 授業科目 | インターンシップⅡ【演習】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 篠崎 真美 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>授業の目的は、「ビジネスコミュニケーション」、「インターンシップⅠ」で身につけた知識、応用力をもとに、インターンに参加しそれらを実践することである。さらに、インターン後に、実践の振り返りを行うことで、PDCAサイクルの「改善行動」とビジネス文章力を身につける。具体的には、1)「礼状」の作成・送付、2)「研修日誌」（報告書）の作成・修正、3) 産業・企業・競合他社分析のPP修正作業、4) 改善提案のPP作成、5) 最終成果発表を行う。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>①産業・企業・競合他社分析能力を修得する ②ビジネススキルとして「自己管理能力」、「チームワーク力」、「コミュニケーション・スキル」、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」、「ファシリテーション力」を熟練し、修得する。 ③アイデアを柔軟に発想し創出できる「イノベーション力」を養う。 ④常に「論理的思考能力」をもち、客観的な根拠をもとに系統立てて発言・議論することができる。 ⑤多様な価値観を尊重し、他者と協働して（「チームワーク力」「課題探求力」）、問題解決課題の成果を出すことができる（「問題解決力」）。 ⑥ビジネス文書作成力を養う。</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 *2年次「ビジネスコミュニケーション」単位取得必修</p> <p>この科目は日系製造業・コンサル業企業での人事労務実務経験のある教員が担当しており、『授業の目的と概要』記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回目 | 「研修日誌」の完成・提出（筑女ネット、印刷物）、礼状作成、改善提案PP作成、発表練習 | 予習：「研修日誌」の作成、復習：「礼状」の完成・送付、PP完成、発表練習 | | |
| 第2回目 | 成果発表会 | 予習：発表資料PP仕上げ、発表練習 | | |
| 第3回目 | 成果発表会 | 予習：発表資料PP仕上げ、発表練習 | | |
| 第4回目 | 成果発表会 | 予習：発表資料PP仕上げ、発表練習 | | |
| 第5回目 | 成果発表会 | 予習：発表資料PP仕上げ、発表練習 | | |
| 第6回目 | 8月下旬から9月下旬に10営業日（80時間）以上の就業体験 ① | 研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。 | | |
| 第7回目 | 8月下旬から9月下旬に10営業日（80時間）以上の就業体験 ② | 研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。 | | |
| 第8回目 | 8月下旬から9月下旬に10営業日（80時間）以上の就業体験 ③ | 研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。 | | |
| 第9回目 | 8月下旬から9月下旬に10営業日（80時間）以上の就業体験 ④ | 研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。 | | |
| 第10回目 | 8月下旬から9月下旬に10営業日（80時間）以上の就業体験 ⑤ | 研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。 | | |
| 第11回目 | 8月下旬から9月下旬に10営業日（80時間）以上の就業体験 ⑥ | 研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。 | | |
| 第12回目 | 8月下旬から9月下旬に10営業日（80時間）以上の就業体験 ⑦ | 研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。 | | |
| 第13回目 | 8月下旬から9月下旬に10営業日（80時間）以上の就業体験 ⑧ | 研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。 | | |
| 第14回目 | 8月下旬から9月下旬に10営業日（80時間）以上の就業体験 ⑨ | 研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。 | | |
| 第15回目 | 8月下旬から9月下旬に10営業日（80時間）以上の就業体験 ⑩ | 研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 30% 「研修日誌」（PDCA「改善行動」をしているか、毎日丁寧・詳細につけているか） | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 60% ①30% 研修評価票（研修先評点）、②30% 成果発表（発表の内容、発表の仕方、PP完成度） | | | |
| 受講態度他 | 10% ①授業の積極的参加、②講義コメント・質問：毎回講義終了時に提出 *次回の講義の始めに回答します | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>（研修中）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・早退厳禁。交通機関の遅延の場合は、遅延証明に名前を書いて、研修先の指導担当者に提出すること。 ・やむを得ず欠勤する場合は、事前に電話で理由とともに研修先に連絡し、事前にメールで理由とともに篠崎に連絡すること。 ・病欠で病院の証明がある場合は、研修先に提出すること。病院の証明書コピーを第一回講義時に篠崎に提出すること。 ・筑女ネットで通知、出席管理、資料提出、フィードバック指導を行うため、常時アクセスすること | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 随時お知らせします | | | |
| オフィスアワー | 火曜日4講目 *事前にメールでアポイントをとってください。 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|------------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 女性とビジネス【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 篠崎 真美 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>授業の目的は、1) 女性ビジネス・パーソンを取り巻くビジネス環境を理解し、自己のキャリア・デザイン構築に応用すること、2) 女性顧客をターゲットとし、ユーザーモデル「ペルソナ」を設定し、商品開発かマーケティング提案を企画することとする。女性ビジネス・パーソンのビジネス環境とは、女性の雇用・起業に関わる法律・施策ならびに社会支援体制、職場環境などを指す。</p> <p>一生涯仕事のキャリアを積みながら、家庭を築き、育児をし、介護に携わることに必要なモチベーションや環境はなにか、育児を終え再就業する際に必要なキャリア・デザインはなにか。また、女性をターゲットとした新たな女性顧客ビジネスの創造「ビジネス・イノベーション」とはなにか。演習ではグループによるディスカッションと「デザインシンキング」の「ペルソナ手法」を用いる。キャリアロールモデルとして、ゲストスピーカー（女性ビジネス・パーソン）の講演を2～3回予定している。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>① 女性の雇用・起業に関わる法律・施策の基礎知識を修得し、女性ビジネス・パーソンのビジネス環境（社会支援体制・職場環境）の現状を説明することができる。</p> <p>② 女性ビジネス・パーソンが直面する課題を理解し、自己のキャリア・デザインに関連付けて応用することができる。「キャリアを構想する力」</p> <p>③ グループワークを通して女性顧客ビジネスの創造として商品開発やマーケティングにおける情報収集・企画・立案ができる。「コミュニケーション・スキル」「情報リテラシー」「論理的思考力」「課題探究力」</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>(3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。</p> <p>この科目はビジネス実務経験と女子大学でのリカレント教育実務経験のある教員が担当しており、『授業の目的と概要』記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | ガイダンス ・ ジェンダーフリー国際比較事情 | 予習：自己のキャリア・デザインを考えてくる | | |
| 第2回 | 女性のライフコースとワーク・ライフ・バランス [グループワーク] | 予習：新聞記事からワーク・ライフ・バランスを調べてくる | | |
| 第3回 | 女性の雇用・起業に関わる法律・施策 [グループワーク] (労働基準法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、女性活躍推進法、起業支援策など) | 予習：新聞記事から女性の雇用に関わる法律・施策を調べてくる | | |
| 第4回 | 雇用形態（正規雇用・派遣・パート）の選択 [グループワーク] | 予習：新聞記事から女性の正規雇用・派遣・パートを調べてくる | | |
| 第5回 | 女性の職場環境（セクシャル・ハラスメントなど） [グループワーク] | 予習：男女の比率に格差がある職業についてそれぞれ調べてくる | | |
| 第6回 | 日本型雇用と外資系雇用の違い [グループワーク] | 予習：日本型雇用の特徴について調べてくる | | |
| 第7回 | ゲストスピーカー① 外資系（北欧）教育学習支援業：プログラムカウンセラー | 予習：教育学習支援業の業務内容を調べてくる | | |
| 第8回 | 女性のビジネス・ライフコースにおけるフリーランス（freelance）の選択とは [グループワーク] | 予習：フリーランスとは何か新聞記事を調べてくる 課題レポート① | | |
| 第9回 | ゲストスピーカー② 元空港グランドスタッフ、フリーランス：人材育成・マナーデザインコンサルタント（筑女先輩） | 予習：グランドスタッフの業務内容を調べてくる 課題レポート② | | |
| 第10回 | 女性トップリーダーの資質と役割 [グループワーク] | 予習：トップリーダーに必要な資質とはなにか調べてくる | | |
| 第11回 | ゲストスピーカー③ 地方銀行：女性副支店長（予定） | 予習：地方銀行の役割と副支店長の業務内容を考えてくる 課題レポート③ | | |
| 第12回 | 女性顧客ビジネスプロジェクト①（ペルソナ設定） [グループワーク] | 課題：情報収集（競合他社商品ほか）、商品開発（案）企画 | | |
| 第13回 | 女性顧客ビジネスプロジェクト②（商品開発） [グループワーク] | 課題：商品開発（案）企画、発表資料P作成、発表練習 | | |
| 第14回 | 女性顧客ビジネスプロジェクト③（発表1） [グループワーク] | 課題：商品開発（案）企画、発表資料P作成、発表練習 | | |
| 第15回 | 自己のキャリア・デザイン | 予習：自己のキャリア・デザインを完成させる 課題レポート④ | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 40％ 課題レポート①②③④ x @ 10% | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 30％ 発表（チーム評価） | | | |
| 受講態度他 | 30％ ①授業・ディスカッション等への参加・貢献度15％、②講義後のコメント（出席カード裏）15％ | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>*ゲストスピーカーの回は予定のため日程が前後する可能性がある</p> <p>*グループワークルール①批判はしない。②常にポジティブシンキングでイノベート（提案）する。③ファシリテーター（教員）の指示に従う</p> <p>*遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）</p> <p>*やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで理由とともに連絡すること</p> | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | <p>金谷千慧子『働くこと』とジェンダー ビジネスの変容とキャリアの創造』明石書店</p> <p>乙部由子『ライフコースからみた女性学・男性学 働くことから考える』ミネルヴァ書房</p> | | | |
| オフィスアワー | 火曜日4限 *事前にメールでアポイントとってください | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 仏教とビジネス【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 篠崎 真美 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>授業目的は、世界宗教とビジネスの関連性を理解した上で、近世から近現代に至るまで仏教の信仰心がビジネスに与えてきた影響をケーススタディによって考察することである。</p> <p>日本では、近世以降全国的に活躍した近江商人は神仏を篤く信仰し「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」の経営理念を持った。近代では生命保険会社は仏教系を基盤に発展した歴史をもち、現代においても松下幸之助氏（パナソニック創業者）や稲盛和夫氏（京セラ創業者）、柳井正氏（ファーストリテイリング創業者）など仏教の信仰心を企業活動に活かす経営者は枚挙に遑がない。これら日本の有数の起業家のケーススタディから仏教の信仰心とビジネスの関連性を分析するとともに、ゲストスピーカーの話から仏教を基に自らのキャリア形成を構想することができる。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>①宗教全般とビジネスの関連性を説明することができる</p> <p>②仏教の信仰心がビジネスに与えた影響を考察しまとめることができる</p> <p>③日本の起業家が仏教・真宗の信仰心をビジネスに活かしているケーススタディを学ぶことで、自らのキャリア・生き方を構想し述べることができる</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目はビジネス・仏教実務経験のある教員が担当しており、実務経験と経営学・仏教学研究により『授業の目的と概要』記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | ガイダンス・仏教の基礎クイズ | 予習：「仏教学Ⅰ・Ⅱ」と「親鸞人と思想Ⅰ・Ⅱ」の振り返り | | |
| 第2回 | 世界宗教とビジネス①（キリスト教、ユダヤ教、イスラム教） | 予習：事前に指定資料を読んでくること | | |
| 第3回 | 世界宗教とビジネス②（重商主義から自由主義） | 予習：重商主義とはなにか調べてきてください | | |
| 第4回 | 世界宗教とビジネス③（プロテスタントと資本主義） | 予習：資本主義とはなにか調べてきてください | | |
| 第5回 | 世界と日本における仏教と社会システム①（上座部仏教と大乘仏教） | 課題レポート①世界宗教とビジネス | | |
| 第6回 | 日本仏教のはじまり | 課題レポート①宗教とビジネス | | |
| 第7回 | 仏教真宗の思想と近江商人 | 課題レポート①宗教とビジネス | | |
| 第8回 | 浄土真宗のみ教えとビジネス | 課題レポート②ケーススタディ | | |
| 第9回 | 真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ①（パナソニック） | 課題レポート②仏教とビジネス | | |
| 第10回 | 真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ②（生命保険会社） | 課題レポート②仏教とビジネス | | |
| 第11回 | ゲストスピーカー：経営に活かす信仰心 *ゲストの予定によって日程変更はありえます | 課題レポート③ゲストスピーカー | | |
| 第12回 | 真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ③（伊藤忠商事） | 課題レポート③ゲストスピーカー | | |
| 第13回 | 真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ④（京セラ） | 課題レポート③ゲストスピーカー | | |
| 第14回 | 人間中心の経済学 | 課題レポート③ゲストスピーカー | | |
| 第15回 | 総括 | 課題レポート③ゲストスピーカー | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 70%（20% x レポート①②③） | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | なし | | | |
| 受講態度他 | 30% ①講義のコメント・質問15%、②授業貢献度15% | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）</p> <p>やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで理由とともに連絡すること</p> <p>交通機関の遅延の場合は、遅延証明に学籍番号、名前を書いて提出すること</p> <p>病欠で病院の証明がある場合は、学生サポート班発行の欠席届を提出した場合は考慮する</p> <p>筑女ネットを利用（通知、資料（テキスト・参考資料）置き場、課題提出、出欠票など）のため、常時アクセスすること</p> | | | |
| 教科書 | プリント配布 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する | | | |
| オフィスアワー | 火曜日 4 講目 *事前にメールにて訪問日時を相談してください | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-----------------------|---|---|------|----|
| 授業科目 | ビジネスコミュニケーション【演習】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 篠崎 真美 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>授業の目的は、日本の社会人としての「ビジネスコミュニケーション・スキル」を身につけることである。さらに、グローバルビジネスにおける多様な価値観を尊重する「ダイバーシティマネジメント」を視野にいれ、「ファシリテーション能力」、「自己管理能力」、「意思決定能力」、「傾聴力」の向上を目指す。</p> <p>TBL (Team-Based Learning) によるデザインシンキングの実践を行う。他者と協働「チームワーク力」により、問題解決アイデアを柔軟に発想し創出できる「イノベーション力」「課題探求力」「問題解決力」、物事を筋道立てて論じることができる「論理的思考能力」を養う。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>①ビジネスコミュニケーション・スキルとして「ファシリテーション能力」「自己管理能力」「意思決定能力」「傾聴力」を習得する</p> <p>②アイデアを柔軟に発想し創出できる「イノベーション力」を養う</p> <p>③常に「論理的思考能力」をもち、客観的な根拠をもとに系統立てて発言・議論することができる</p> <p>④多様な価値観を尊重し、他者と協働して（「チームワーク力」「課題探求力」）、問題解決課題の成果を出すことができる（「問題解決力」）。</p> | | | |
| この授業が目的としてDPや関連する科目など | <p>(1) ③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」</p> <p>(2) ①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>(3) ②獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>(4) ③-②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>*本科目は3年次開講科目「インターンシップⅠ・Ⅱ」の必須科目です。</p> <p>この科目は企業で航空会社（運輸）でのサービス実務経験、製造メーカー・コンサル企業の人事・秘書業務経験のある教員が担当しており、『授業の目的と概要』記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | ガイダンス（TBLの進め方・ルール説明）・アイスブレイク（自己紹介） | 復習：「ファシリテーション能力」とはなにか調べてください | | |
| 第2回 | ステップ1 社会人としての自覚を持つ | 予習：教科書ステップ1（pp3-22）を理解してください | | |
| 第3回 | ステップ2 プロ意識を持つ | 予習：教科書ステップ2（pp23-38）を理解してください | | |
| 第4回 | ステップ3 組織内のコミュニケーションを考えよう | 予習：教科書ステップ3（pp39-60）を理解してください | | |
| 第5回 | ステップ4 1対1のコミュニケーションを考えよう | 予習：教科書ステップ4（pp61-82）を理解してください | | |
| 第6回 | ステップ5 自分の意見をしっかり伝えよう | 予習：教科書ステップ5（pp83-98）を理解してください | | |
| 第7回 | 外部講師による講座 *日程は調整中のため、変更の可能性あり。 | 予習：事前配布資料をみて、わからない用語を調べてくる | | |
| 第8回 | ステップ6 効果的なプレゼンテーションをしよう | 予習：教科書ステップ6（pp99-128）を理解してください | | |
| 第9回 | プレゼンテーション演習①（課題1）デザインシンキング・情報収集 | グループワークの課外作業 | | |
| 第10回 | プレゼンテーション演習②（課題1）発表PP作成 | グループワークの課外作業 | | |
| 第11回 | プレゼンテーション演習③（課題1）発表・評価 | グループワークの課外作業 | | |
| 第12回 | プレゼンテーション演習④（課題2）デザインシンキング・情報収集・PP作成 | グループワークの課外作業 | | |
| 第13回 | プレゼンテーション演習⑤（課題2）発表・評価 | グループワークの課外作業 | | |
| 第14回 | ステップ8/9 言葉遣い・電話のマナーを身に付けよう *就活の装いで参加してください | 予習：教科書ステップ8/9（pp150-196）を理解してください | | |
| 第15回 | ステップ7/10 ビジネスマナー・接待編 *就活装いで参加してください | 予習：教科書ステップ7/10（pp130-148, 197-222）を理解してください | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 30% 1回 *外部講師の講演内容で課題テーマを出します | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 40% 2回 プレゼンテーション演習③⑤：各20%（発表の仕方、発表の内容、PP完成度） | | | |
| 受講態度他 | 30%（①授業の積極的参加：グループワークでの討議への貢献度、②講義コメント・質問：毎回講義終了時に提出）*次回の講義の始めに回答します） | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>グループワークルール①批判はしない。②常にポジティブシンキングでイノベート（提案）する。③ファシリテーター（教員）の指示に従う</p> <p>遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）</p> <p>やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで理由とともに連絡すること</p> <p>交通機関の遅延の場合は、遅延証明に学籍番号、名前を書いて提出すること</p> | | | |
| 教科書 | 富士通エフ・オー・エム株式会社『ビジネスコミュニケーションスキルを磨く10のステップ<改訂版>』FOM出版（2014） | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する | | | |
| オフィスアワー | 火曜日4講目 *事前にメールにて訪問日時を相談してください | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|---------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 環境マネジメント【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 篠崎 真美 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>授業目的は、環境経営の基本的フレームワークである“環境マネジメントシステム（エコアクション21・国際標準環境規格ISO14001）”により、企業がどの様なライフサイクル（エコ商品の開発、生産管理、取引先管理、製造など）を通じ環境問題を管理しているかを理解し、身近な環境プロジェクトを立案する実践力を養うことである。</p> <p>授業では環境マネジメントに必要な基礎的知識を習得し、後半では大学の学内エコツアーにてエネルギー調査を行い、省エネエコ活動プロジェクトの企画、実施、成果物を作成する。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>①環境マネジメントシステムISO14001の実施計画から環境影響評価と環境側面抽出ができる。</p> <p>②環境プロジェクトの立案（課題抽出・解決方法の提案）ができる。</p> <p>③必要なデータの入手、データ分析、調査（インタビュー、実地調査）、報告書をまとめることができる。</p> <p>④省エネエコ活動プロジェクトの成果物を完成することができる。</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>(4) -①-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>この科目は企業内環境対策実務経験のある教員が担当しており、実務経験と環境学研究により『授業の目的と概要』記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | ガイダンス・地球環境問題情勢（SDGs、気候変動、エネルギー問題） | 予習：日本のエネルギー課題について調べてくる | | |
| 第2回 | 環境マネジメントシステムの概要 | 復習：環境マネジメントシステムの概要をまとめる | | |
| 第3回 | 環境報告書（リサーチ） | 復習：興味ある企業の「環境報告書」を調べ発表資料PPを作成する | | |
| 第4回 | 環境報告書（発表1） | 復習：発表資料の改善（再作成） | | |
| 第5回 | 環境報告書（発表2） | 復習：発表資料の改善（再作成） | | |
| 第6回 | 訪問企業選定・環境報告書分析・インタビュー項目（環境パフォーマンス）作成 | 復習：フィールドワーク準備 | | |
| 第7回 | フィールドワーク：企業訪問・インタビュー | 復習：インタビュー報告書作成（A42枚程度、規定フォーマット） | | |
| 第8回 | 環境プロジェクト演習①：省エネルギーエコ活動プロジェクト（節減活動プロジェクト企画） | 復習：調査方法を考えてくる | | |
| 第9回 | 環境プロジェクト演習② 筑紫女学園大学内のエネルギー調査：省エネパトロール[課題探求型] | グループワークの課外作業：必要なデータはなにか整理する | | |
| 第10回 | 環境プロジェクト演習③：データ分析・成果物作成[可視化による意識改革] | グループワークの課外作業：データ分析 | | |
| 第11回 | 環境プロジェクト演習④：成果物製作 | グループワークの課外作業：成果物製作 | | |
| 第12回 | 環境プロジェクト演習⑤：成果物貼付作業 | グループワークの課外作業：成果物貼付作業 | | |
| 第13回 | 環境プロジェクト演習⑥：学内エコ活動実践（成果物による意識改革・啓発活動） | グループワークの課外作業：成果発表PP作成 | | |
| 第14回 | 環境プロジェクト演習⑦学内エコ活動実践の成果発表PP作成 | グループワークの課外作業：成果発表PP作成 | | |
| 第15回 | 環境プロジェクト演習⑧（まとめ） | グループワークの課外作業：ディスカッション | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 40%（①インタビュー項目作成20%、②フィールドワーク報告レポート20%） | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 30%（①環境報告書概要発表10%、②プロジェクトの成果発表10%、③成果物10%） | | | |
| 受講態度他 | 30%（授業の積極的参加：討議や演習への貢献度） | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）</p> <p>やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで理由とともに連絡すること</p> <p>交通機関の遅延の場合は、遅延証明に学籍番号、名前を書いて提出すること</p> <p>病欠で病院の証明がある場合は、学生サポート班発行の欠席届を提出した場合は考慮する</p> <p>筑女ネットを利用（通知、資料（テキスト・参考資料）置き場、課題提出、出欠票など）のため、常時アクセスすること</p> | | | |
| 教科書 | プリントを配布 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する | | | |
| オフィスアワー | 火曜日4講目 *必ず事前にメールにて訪問日時を相談して下さい | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|------------------------------------|------|----|
| 授業科目 | ビジネス実務演習Ⅱ【演習】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 大橋 健治 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>企業や自治体などの組織は長期、中期、短期の目標をもって活動する。ビジネス実務とは、チームが担当課題達成に向けた仕事（協働）と、個人が担当役割達成に向けた仕事（個働）の二つの側面からみた活動である。本授業では、この協働と個働の二側面からビジネスマナーの基本を学び、職場で大切にされる価値観や職場でのマナーの基本を修得することを目的とする。授業の目的を効果的に達成するために、ロールプレイング（役割演技）を中心としたアクティブ・ラーニング（能動的学修）を導入する。アクティブ・ラーニングを成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み、学生一人ひとりが真摯にロールプレイング（役割演技）を行い、クラス全体でビジネス組織で必要とされるマナーの意味を内省するというプロセスが不可欠である。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>1. ビジネス実務の概念が理解できる。 2. ビジネス実務に就く上で必要となる基礎知識を身につけることができる。</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業） | シラバスの内容の吟味と履修の意思決定 | | |
| 第2回 | クラスビルディング | 事後学習 クラスビルディングでの気づき | | |
| 第3回 | PART 1 服装・身だしなみのマナー | 受講ノートの指示に沿ったPART 1 のプリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第4回 | PART 2 挨拶・言葉づかいのマナー | 受講ノートの指示に沿ったPART 2 のプリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第5回 | PART 3 電話のマナー | 受講ノートの指示に沿ったPART 3 のプリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第6回 | PART 4 社内でのマナー | 受講ノートの指示に沿ったPART 4 のプリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第7回 | PART 5 訪問先でのマナー | 受講ノートの指示に沿ったPART 5 のプリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第8回 | PART 6 接客のマナー | 受講ノートの指示に沿ったPART 6 のプリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第9回 | PART 7 接待のマナー | 受講ノートの指示に沿ったPART 7 のプリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第10回 | PART 8 お付き合いのマナー | 受講ノートの指示に沿ったPART 8 のプリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第11回 | ビジネス文書の基本、メールのマナーとタブー | 受講ノートの指示に沿ったプリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第12回 | 応用問題のロールプレイング | 受講ノートの指示に沿ったプリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第13回 | 成果発表と質疑応答 | 成果発表の準備と授業内容の振り返り | | |
| 第14回 | 成果発表と質疑応答 受講ノートの提出 | 成果発表の準備と授業内容の振り返り | | |
| 第15回 | 授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却 | 本授業を履修した成果のまとめを作った参加する | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 30% 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返り〔レポート型式〕を必ず記述のこと）（受講ノートは最終回に返却します） | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 20% スライドを用いたプレゼンテーション | | | |
| 受講態度他 | 50% アクティブ・ラーニングへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>授業の目的と概要で述べたように、本授業ではロールプレイング（役割演技）を中心としたアクティブ・ラーニングを導入する。アクティブ・ラーニングを成立させる大前提は、個々の学生による責任をもった授業外学修である。これを怠る学生は授業の場に入ること認めない（欠席扱いとする）。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</p> | | | |
| 教科書 | プリントを配付する。 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| オフィスアワー | 水曜日の昼休み | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|--------------------------------------|------|----|
| 授業科目 | マーケティング概論【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 大橋 健治 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>企業の目的は顧客の創造である。この命題に真向から取り組むのがマーケティングの本質的な役割である。企業に就職する学生はもちろん、行政機関に就職する就職する学生も、この命題を強く認識しておく必要がある。本授業では、マーケティングの発想法と近年話題になったマーケティング手法の考え方を学ぶことを目的とする。</p> <p>授業の目的を効果的に達成するために、TBL (Team-Based Learning) といわれるアクティブ・ラーニングの手法を導入する。TBLを成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯にチームで討議を行い→クラス全体で討議を行うとともに→教員からのメッセージを受け取り、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>1. マーケティングの発想法を、自らが知る事例を用いて説明することができる。</p> <p>2. 教科書で取り上げたマーケティング手法を、自らが知る事例を用いて説明することができる。</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」</p> <p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業） | シラバスの内容の吟味と履修の意思決定 | | |
| 第2回 | 第1章 ビジョンとミッション ～なぜ、何をしたいのか。 | 受講ノートの指示に沿った教科書第1章の事前学修・事後学修 | | |
| 第3回 | 第2章 現状分析 ～強み、弱み、チャンス、ピンチ、ライバルについて。 | 受講ノートの指示に沿った教科書第2章の事前学修・事後学修 | | |
| 第4回 | チームビルディング演習 | 継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること | | |
| 第5回 | 第3章 ターゲットオーディエンス ～向き合う相手はいったい「誰」なのか。 | 受講ノートの指示に沿った教科書第3章の事前学修・事後学修 | | |
| 第6回 | 第4章 ポジショニング ～どう差別化して、何に見られたいのか。 | 受講ノートの指示に沿った教科書第4章の事前学修・事後学修 | | |
| 第7回 | 第5章 4つのPのマーケティングミックス ～何を、どう、社会にもたらすのか。 | 受講ノートの指示に沿った教科書第5章の事前学修・事後学修 | | |
| 第8回 | 第6章 実施計画とマネジメント ～いつ、誰が、何を、いくらかけてやるのか。 | 受講ノートの指示に沿った教科書第6章の事前学修・事後学修 | | |
| 第9回 | 第7章 実行と評価 ～どう世界を幸せにしたのか。 | 受講ノートの指示に沿った教科書第7章の事前学修・事後学修 | | |
| 第10回 | DVD「市場が企業を生かす」視聴とディスカッション | 受講ノートの指示に沿った授業内容のまとめと事後学修 | | |
| 第11回 | DVD「需要を創る」視聴とディスカッション | 受講ノートの指示に沿った授業内容のまとめと事後学修 | | |
| 第12回 | DVD「競争に勝つ」視聴とディスカッション | 受講ノートの指示に沿った授業内容のまとめと事後学修 | | |
| 第13回 | 成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答 | マイケースの整理とプレゼンテーションの準備 | | |
| 第14回 | 成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答 受講ノートの提出 | マイケースの整理とプレゼンテーションの準備 | | |
| 第15回 | 授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却 | 過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 30% 受講ノートの提出（最終ページをしっかりと記述のこと〔感想文型式〕）（受講ノートは最終回に返却します） | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 20% オーラル・プレゼンテーション（マイケースでマーケティング・マネジメントを語る） | | | |
| 受講態度他 | 50% TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>授業の目的と概要で述べたように、本授業ではTBL (Team-Based Learning) を導入する。TBLを成立させる大前提は、個々の学生による自らとチームの仲間の学修への責任をもった授業外学修と、教員との相互確認（質疑応答）である。これを怠る学生は授業の場に入ることを拒否する。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</p> | | | |
| 教科書 | <p>プリントを配布する。</p> <p>※初回の授業時に本授業専用の受講ノートを配付する。</p> | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 『マーケティング原理』フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング共著 | | | |
| オフィスアワー | 水曜日の昼休み | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|----------------------------------|------|----|
| 授業科目 | マーケティングリサーチ【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 大橋 健治 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>企業の目的は顧客の創造である。この命題に真っ向から取り組むのがマーケティングの本質的な役割である。企業に就職する学生はもちろん、行政機関に就職する学生も、この命題を強く認識しておく必要がある。本授業ではマーケティングリサーチの方法を学ぶことを目的とするが、学生個人が理論を学んだ後に、商品開発の仮説を立案し、それを検証する為に市場分析を行い、具体的な商品開発提案を行う、といった実践を行う。つまり、理論と実践のキャッチボールを行うことによって効果的な学習を行う。授業の目的を効果的に達成するために「調べ学習」といわれるアクティブ・ラーニングの手法を導入する。調べ学習を成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学習に取り組む授業において真摯プレゼンテーションを行い→クラス全体で積極的に質問を行い、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>1. マーケティングリサーチの方法を、自らが知る事例を用いて説明することができる。 2. マーケティングリサーチの手法を用いて、商品開発計画を立て、それをプレゼンテーションすることができる。</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつなぐための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業） | シラバスの内容の吟味と履修の意思決定 | | |
| 第2回 | クラスビルディング演習 | 継続して受講予定の学生は必ずクラスビルディング演習に参加すること | | |
| 第3回 | 誰が・なぜ・今か ビデオ視聴と討論、質疑応答 | プリント「誰が・なぜ・今か」を読み込んで概要を理解しておくこと | | |
| 第4回 | 誰が・なぜ・今か 調べ学習とプレゼンテーション | 「誰が・なぜ・今か」の内容に沿って調べ学習を行う | | |
| 第5回 | ユニークな仮説 ビデオ視聴と討論、質疑応答 | プリント「ユニークな仮説」を読み込んで概要を理解しておくこと | | |
| 第6回 | ユニークな仮説 調べ学習とプレゼンテーション | 「ユニークな仮説」の内容に沿って調べ学習を行う | | |
| 第7回 | リサーチの始まり ビデオ視聴と討論、質疑応答 | プリント「リサーチの始まり」を読み込んで概要を理解しておくこと | | |
| 第8回 | リサーチの始まり 調べ学習とプレゼンテーション | 「リサーチの始まり」の内容に沿って調べ学習を行う | | |
| 第9回 | JR二日市駅、西鉄太宰府駅、西鉄二日市駅周辺の市場視察と商品開発の仮説立案Ⅰ | プリントに記載されていることの振り返り | | |
| 第10回 | JR二日市駅、西鉄太宰府駅、西鉄二日市駅周辺の市場視察と商品開発の仮説立案Ⅱ | プリントに記載されていることの振り返り | | |
| 第11回 | 商品開発計画の立案 プレゼンテーションの準備 | 商品開発提案書のひな型に基づいて自らのアイデアとデータを整備する | | |
| 第12回 | 商品開発提案のプレゼンテーションⅠ | 持ち時間を想定したプレゼンテーションと質問への対応の準備 | | |
| 第13回 | 商品開発提案のプレゼンテーションⅡ 続き | 持ち時間を想定したプレゼンテーションと質問への対応の準備 | | |
| 第14回 | 商品開発提案のプレゼンテーションⅢ 続き | 持ち時間を想定したプレゼンテーションと質問への対応の準備 | | |
| 第15回 | 授業の振り返り | 本授業を履修した成果のまとめを作って参加する | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 30% 商品開発提案と題したレポートの提出 | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 20% スライドを用いたプレゼンテーション | | | |
| 受講態度他 | 50% 調べ学習への貢献、クラス討議への積極的な参加 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>授業の目的と概要で述べたように、本授業では調べ学習を導入する。調べ学習を成立させる大前提は、個々の学生による責任もった授業外学習と、教員との相互確認（質疑応答）である。これを怠る学生は授業の場に入ることを認めない（欠席扱いとする）。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</p> | | | |
| 教科書 | プリントを配付する。 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| オフィスアワー | 水曜日の昼休み | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|----------------------------------|------|----|
| 授業科目 | セールスマネジメント【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 大橋 健治 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>セールス（営業）は、創って（開発）、造って（製造）、売る（販売）という企業活動の最終段階（計画通りに販売する）の責任を担っている。加えて、お客様の声（市場のニーズ）を開発に反映する役割も期待されている。我が国の企業の営業スタイルは、おおよそ、行動重視型、奉仕型、提案型、ワークショップ型の4類型に分けられるが、それぞれの類型によって求められるマネジメントのあり方も変わってくる。本授業では、それぞれのタイプの営業の実例を題材にその効果的なマネジメントのあり方を考察することを目的とする。</p> <p>授業の目的を効果的に達成するために、「調べ学習」といわれるアクティブ・ラーニングの手法を導入する。調べ学習を成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯プレゼンテーションを行い→クラス全体で積極的に質問を行い、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。</p> | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の中で営業が果たすべき役割が理解できる。 2. 営業の4類型とそのマネジメントのあり方が説明できる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身につけている。</p> <p>この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業） | シラバスの内容の吟味と履修の意思決定 | | |
| 第2回 | クラスビルディング演習 | 継続して受講予定の学生は必ずクラスビルディング演習に参加すること | | |
| 第3回 | 企業の中での営業の役割 | 配付プリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第4回 | 営業という仕事の魅力 | 配付プリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第5回 | 行動重視型営業のマネジメント①（教員によるケーススタディ） | 配付プリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第6回 | 行動重視型営業のマネジメント②（学生によるケーススタディ） | 学生個人による事例の探索 | | |
| 第7回 | 奉仕型営業のマネジメント①（教員によるケーススタディ） | 配付プリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第8回 | 奉仕型営業のマネジメント②（学生によるケーススタディ） | 学生個人による事例の探索 | | |
| 第9回 | 提案型営業のマネジメント①（教員によるケーススタディ） | 配付プリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第10回 | 提案型営業のマネジメント②（学生によるケーススタディ） | 学生個人による事例の探索 | | |
| 第11回 | ワークショップ型営業のマネジメント①（教員によるケーススタディ） | 配付プリントの事前学修・事後学修 | | |
| 第12回 | ワークショップ型営業のマネジメント②（学生によるケーススタディ） | 学生個人による事例の探索 | | |
| 第13回 | 成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答 | 成果発表の準備と授業内容の振り返り | | |
| 第14回 | 成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答 レポートの提出 | 成果発表の準備と授業内容の振り返り | | |
| 第15回 | 授業のまとめと振り返り レポートの返却 | 本授業を履修した成果のまとめを作った参加する | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 30% 授業全体の振り返りとして自分が学んだこと、理解したことを記述のこと。 | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 20% オーラル・プレゼンテーション | | | |
| 受講態度他 | 50% 調べ学習への貢献、クラス討議への積極的な参加 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>授業の目的と概要で述べたように、本授業では調べ学習を導入する。調べ学習を成立させる大前提は、個々の学生による責任をもった授業外学修と、教員との相互確認（質疑応答）である。これを怠る学生は授業の場に入ることを認めない（欠席扱いとする）。初回の授業で受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</p> | | | |
| 教科書 | プリントを配付する。 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| オフィスワーク | 水曜日の昼休み | メールアドレス | | |

| | | | |
|-------------------------|--|----------------------|----|
| 授業科目 | メディア論【講義】 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 吉野 嘉高 | 単 位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・メディアを作り出したのは、私たち人間である。一方で、メディアが私たちの日常の思考や身体感覚、社会的コミュニケーションのあり方に影響を与えることで現代人を作り出し、世界を変えてきたともいえる。このプロセスについて理解を深める。 ・また、各メディアの現状や問題点について理解する。 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・メディアが社会をどう変えたのか、説明できること ・メディアが私たちの思考や感覚に及ぼす影響について説明できること ・各メディアの現状や問題点を具体的に述べる事ができる。 | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) ①-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は放送関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | |
| 授業計画 | 授 業 内 容 | 授 業 外 学 修 など | |
| 第 1回 | オリエンテーション | 配布資料を熟読 | |
| 第 2回 | 「メディア」「メディア学」とは何か | 配布資料を熟読 | |
| 第 3回 | 「メディアはメッセージ」とは | テキスト 第1章に関する課題 | |
| 第 4回 | 「音声メディア」から「視覚メディア」への変化 | テキスト 第1章に関する課題 | |
| 第 5回 | 「視覚メディア」から「電子メディア」への変化 | テキスト 第7章に関する課題 | |
| 第 6回 | インターネットの現状と問題点 ～ネット炎上ほか～ | テキスト 第7章に関する課題 | |
| 第 7回 | インターネットの現状と問題点 ～政治的無関心ほか～ | テキスト 第6章に関する課題 | |
| 第 8回 | テレビの誕生と現状 | テキスト 第6章に関する課題 | |
| 第 9回 | テレビの問題点 | テキスト 第6章に関する課題 | |
| 第10回 | ゲスト講師による放送メディアの現状 | 配布資料の熟読 | |
| 第11回 | 映画の誕生と現状 | テキスト 第4章に関する課題 | |
| 第12回 | 出版の現状と問題点 | テキスト 第5章に関する課題 | |
| 第13回 | 広告の現状と問題点 | 期末レポートに向けてテキストを熟読する。 | |
| 第14回 | プロパガンダと情報操作 | 期末レポートの構成を考える。 | |
| 第15回 | まとめ | レポート作成 | |
| 成績評価 | 割 合 (%) 、 種 類 ・ 評 価 基 準 など | | |
| 定期試験 | - | | |
| レポート | 30% (期末レポート) | | |
| 小テスト等 | 30% (基本的に授業中に毎回実施) | | |
| 成果発表 | 20% (課題提出、グループ別発表等) | | |
| 受講態度他 | 20% 積極的な受講態度を重視 | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>授業の最後に小テストを実施。 教科書は必ず入手してください。 小テストの配点が大きいことに注意してください。ゲスト講師の都合でスケジュールに変更もあり。</p> | | |
| 教科書 | 渡辺 武達 田口 哲也 吉澤 健吉 『メディア学の現在 (新訂第2版)』世界思想社 | | |
| 指定図書 | - | | |
| 参考図書 | 授業中に適宜紹介 | | |
| オフィスアワー | 火曜日、水曜日昼休み (12:30~13:00) | メールアドレス | |

| | | | | |
|-------------------------|---|---------|------|----|
| 授業科目 | ジャーナリズム論【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 吉野 嘉高 | | 単 位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>今、ジャーナリズムが揺らいでいる。ニュースメディアに対する不信感が、日本だけでなく、世界各国で広がっており、民主主義の原動力としての機能に、新たな問いがいくつも突き付けられている。この授業では、世界同時多発的なメディア不信の現状を俯瞰し、それをもたらした社会的、技術的背景を掘り下げることで、現代ジャーナリズムの課題を浮き彫りにする。</p> <p>また、満州事変以降、新聞や放送メディアが日本社会でどのように機能してきたかを振り返ることで、日本のジャーナリズムの「現在」を「過去」と関連づけて考察する。</p> | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジャーナリズムと民主主義社会との関係について説明できる。 ・ドイツ、イギリス、アメリカのメディアについて説明できる。 ・日本の報道機関の特徴と問題点について説明できる。 ・日本の報道機関の歴史について説明できる | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) ①-②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は放送関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | オリエンテーション ジャーナリズムの役割と民主主義社会 | 予習・復習 | | |
| 第2回 | ニュースメディアへの不信感① ～ジャーナリズム論受講生の意識は？～ | 予習・復習 | | |
| 第3回 | ニュースメディアへの不信感② ～ドイツの場合～ | 予習・復習 | | |
| 第4回 | ニュースメディアへの不信感③ ～イギリスの場合～ | 予習・復習 | | |
| 第5回 | ニュースメディアへの不信感④ ～米国の場合～ | 予習・復習 | | |
| 第6回 | ニュースメディアへの不信感⑤ ～日本の場合～ | 予習・復習 | | |
| 第7回 | 「客観報道」の幻想 ① ～エコナッキングオイル報道～ | 予習・復習 | | |
| 第8回 | 「客観報道」の幻想② ～反原発報道～ | 予習・復習 | | |
| 第9回 | 自己規制する日本のニュースメディア | 予習・復習 | | |
| 第10回 | 記者クラブの構造① ～メリットとは～ | 予習・復習 | | |
| 第11回 | 記者クラブの構造 ～デメリットとは～ | 予習・復習 | | |
| 第12回 | 日本のジャーナリズムの歴史① ～中立新聞の誕生～ | 予習・復習 | | |
| 第13回 | 日本のジャーナリズムの歴史② ～満州事変から日中戦争～ | 予習・復習 | | |
| 第14回 | 日本のジャーナリズムの歴史③ ～太平洋戦争から戦後～ | 予習・復習 | | |
| 第15回 | まとめ | 復習 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | - | | | |
| レポート | 30% (期末レポート) | | | |
| 小テスト等 | 50% (授業の最後に毎回実施) | | | |
| 成果発表 | - | | | |
| 受講態度他 | 20% 積極的な受講態度を重視 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>パワーポイントで作成した資料や、映像資料を使います。</p> <p>クリッカーによるアンケートなどアクティブラーニングを適宜行います。</p> <p>毎回授業の最後に小テストを実施します。</p> <p>小テストの配点が大きいことに注意してください。</p> | | | |
| 教科書 | 林香里『メディア不信 何が問われているのか』岩波新書 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 授業中に適宜紹介 | | | |
| オフィスアワー | 授業の前後に相談してください | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|-----------------------------|------|----|
| 授業科目 | 現代社会とメディア【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 橋本 嘉代 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会とメディアについて「コミュニケーション」をキーワードとして学ぶ。 ・情報伝達、意図の理解、関係の形成・維持など、さまざまな側面からコミュニケーションを理解し、メディアを学ぶための基礎的な力を身につける。 ・メディアの影響力や機能に関する正しい知識を獲得する。 ・企業活動や文化、情報技術など、社会の組織や社会現象においてコミュニケーションが果たす役割について考える。 | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を理解するうえで基礎的知識となる「コミュニケーション」について、身近なトピックからマクロな社会現象に至るまでを抽象的な理論と関連づけて理解し、自分の言葉で説明することができる。 ・メディア研究の主要な理論や学説の系譜、実験や調査といった方法論を理解し、説明することができる。 ・メディアやコミュニケーションが作り上げる社会現象や人間関係のつながりについて推論することができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) ②-1 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | ガイダンス | シラバス、ガイダンスに目を通す。 | | |
| 第2回 | 第1章 コミュニケーションの基礎 (1) | 第1章を読み要点を確認する。課題に取り組む。 | | |
| 第3回 | 第1章 コミュニケーションの基礎 (2) | 第1章を読み要点を確認する。課題に取り組む。 | | |
| 第4回 | 第1章 コミュニケーションの基礎 (3) | 第1章の復習 (小テスト対策) | | |
| 第5回 | 第2章 コミュニケーションの様相と関係性 (1)、第1章の小テスト | 第2章を読み要点を確認する。課題に取り組む。 | | |
| 第6回 | 第2章 コミュニケーションの様相と関係性 (2) | 第2章を読み要点を確認する。課題に取り組む。 | | |
| 第7回 | 第2章 コミュニケーションの様相と関係性 (3) | 第2章の復習 (小テスト対策) | | |
| 第8回 | 第3章 コミュニケーションの影響力 (1)、第2章の小テスト | 第3章を読み要点を確認する。課題に取り組む。 | | |
| 第9回 | 第3章 コミュニケーションの影響力 (2) | 第3章を読み要点を確認する。課題に取り組む。 | | |
| 第10回 | 第3章 コミュニケーションの影響力 (3)、レポートについて | 第3章の復習 (小テスト対策) | | |
| 第11回 | 第4章 コミュニケーションと社会 (1)、第3章の小テスト | 第4章を読み要点を確認する。課題に取り組む。 | | |
| 第12回 | 第4章 コミュニケーションと社会 (2) | 第4章を読み要点を確認する。課題に取り組む。 | | |
| 第13回 | 第4章 コミュニケーションと社会 (3) | 第4章の復習 (小テスト対策) | | |
| 第14回 | 全体のまとめ + レポートの書き方について + 第4章の小テスト | レポート執筆 | | |
| 第15回 | ゲスト講師による特別講義 | 教科書全体の復習、レポート執筆、特別講義の質問を考える | | |
| 成績評価 | 割合(%)、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 0% なし | | | |
| レポート | 30% | | | |
| 小テスト等 | 50% (小テスト20%、課題 30%) | | | |
| 成果発表 | 0% | | | |
| 受講態度他 | 20% (リアクションペーパーやグループワークなどの取り組み) | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容についての説明をしますが、参加者が主体的・能動的に学ぶためのインタラクティブな学習方法(書く、話す、調べる、発表する等)や授業前課題など取り入れます。 ・随時、授業前や授業中に教科書の章末の「ホームワーク」などを中心とした課題を出します。 ・特別講義の日程は変更になる場合があります。 | | | |
| 教科書 | 辻大介・是永論・関谷直也編『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣 *ワーク用書き込み式ノートや「筑女ネット」のオンライン教材も併用します。 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | NHK放送文化研究所編『現代社会とメディア・家族・世代』新曜社 | | | |
| オフィスアワー | 火曜 12:30-14:00 | メールアドレス | | |

| 授業科目 | 出版論【講義】 | 開講時期 | 前期 |
|-------------------------|--|---------------------------------|----|
| 担当教員 | 橋本 嘉代 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・雑誌を中心とする出版メディアの特性と社会的役割を理解する。 ・出版業の現状、課題、今後の可能性について、認識を深める。 ・制作プロセスや出版に携わる人々の体験談を参考にし、出版への理解を深める。 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・書籍や雑誌の主なジャンルとその特性、社会的機能を類別できる。 ・出版関連の仕事の多様性を知り、各々の現場のやりがいや必要なスキルを進路選択の参考にできる。 ・インターネットやソーシャルメディアの普及が「出版」「編集」「読書」に与えた影響を述べるができる。 ・著作権・肖像権について正しい知識を持ち、ネット利用などの際に著作権者の権利を守ることができる。 ・「編集」という行為の意義について、自分なりの意見を述べるができる。 | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | オリエンテーション + 出版メディアの概念と特性 (講義) | オリエンテーションの内容を復習 | |
| 第2回 | 出版社の仕事、編集者の仕事 (作品紹介 『ブラダを着た悪魔』『働きマン』『バクマン。』など) | 出版物を読み、編集者の仕事について考える | |
| 第3回 | 編集以外の出版業務 (作品紹介 『校閲ガール』『働きマン』『重版出来!』) | 第2-3回で扱った出版の仕事について整理しておく | |
| 第4回 | 出版メディアの歴史 | 配布資料に目を通し、復習 | |
| 第5回 | 出版流通と販売 | 配布資料に目を通し、復習 | |
| 第6回 | 「雑誌の人格」を想像してみる (課題①) | 分析対象誌を選定して熟読し、雑誌が想定する読者像をビジュアル化 | |
| 第7回 | ライフスタイルの多様化と女性雑誌 → 雑誌の歴史的比較 | インターネットなどで過去の社会の状況や流行を調べる | |
| 第8回 | 出版メディアの歴史 | インターネットなどで過去の社会の状況や流行を調べる | |
| 第9回 | グループ研究：内容分析 (課題②) | 分析対象を選ぶためのリサーチ | |
| 第10回 | グループ研究：内容分析 (課題②) | 分析方法と分担を決め、各自で分析 | |
| 第11回 | グループ研究：内容分析の発表 (課題②) | プレゼン資料の作成 (分担とスケジュールを決めておく) | |
| 第12回 | デジタル時代の出版 | 配布資料に目を通し、授業の内容を復習 | |
| 第13回 | 出版流通と販売 | 配布資料に目を通し、授業の内容を復習 | |
| 第14回 | 著作権と出版 (+ 小テスト) | 授業の復習、小テスト対策 | |
| 第15回 | 表現の自由と出版倫理 → レポート(課題③) | レポート執筆 | |
| 成績評価 | 割合(%)、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | なし | | |
| レポート | 40% (課題①③) | | |
| 小テスト等 | 20% | | |
| 成果発表 | 30% (課題②) | | |
| 受講態度他 | 10% (授業での積極的な態度を考慮します) | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | ・教科書は指定しませんが、資料を配布します。 | | |
| 教科書 | なし | | |
| 指定図書 | なし | | |
| 参考図書 | 永江朗、2016、『小さな出版社のつくり方』猿江商會、川井良介編、2012、『出版メディア入門 第2版』日本評論社 | | |
| オフィスアワー | 授業の前後 | メールアドレス | |

| 授業科目 | メディアコンテンツ演習【演習】 | 開講時期 | 前期 |
|--|---|---|----|
| 担当教員 | 橋本 嘉代 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>コンピュータを活用し、メディアコンテンツを制作する授業です。</p> <p>雑誌や書籍、パンフレットなどの出版物をデザインするページレイアウトソフト「InDesign」を使って、誌面デザインを学びます。</p> <p>コンテンツ制作と発信のための基本的な知識・技能の習得を目指します。</p> | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを活用してコンテンツを作る情報リテラシーを身につける。 ・情報を整理し、印刷物の形にしてわかりやすく人に伝えることができる。 ・印刷物の基本的なルールを理解し、ページレイアウトソフト「InDesign」の基本設定、文字組み、フォント設定、画像やテキストデータの流し込みなどができる。 ・本文、リード、キャプションなどの書き分けをし、簡単なオリジナルコンテンツ（雑誌風ページ）を作ることができる。 | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どりの実践的教育を行います。</p> | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 ガイダンス、印刷とDTPの基本① (Section1前半) | 演習：ソフトの基本的な操作（起動、初期画面からの選択） | 教科書の範囲の予習・復習 | |
| 第2回 印刷とDTPの基本② (Section1後半) | 演習：ソフト上に画像を配置してみる | 教科書の範囲の予習・復習。操作方法を忘れないようにメモしておく | |
| 第3回 グラフィックデータの基本 (Section 2) +p.178-179 | 演習：画像加工（縮小、トリミング、背景削除、色補正など） | 教科書の範囲の予習・復習 (p.178-179も) 画像加工ソフトの扱い方 | |
| 第4回 文字組みの基本 (Section 3) | 演習：フォントの選び方、設定変更方法（サイズ、字間、行間）、文字のレイアウト方法（タイトル、リード、本文、キャプションなど） | 教科書の範囲の予習・復習 | |
| 第5回 デザインの基本 (Section4) | 演習：共通化・グループ化・行頭と行末・グループ同士のアキなどをカフェ紹介ページ (p.121～) を参考に学ぶ | 教科書の範囲の予習・復習 | |
| 第6回 レイアウトをしよう① (Section5) | PDF化・印刷 (課題①) | 演習：教科書p.138のレイアウトを模倣してみる → 教科書の範囲の復習。課題①が提出できなかった場合は授業外に制作。 | |
| 第7回 レイアウトをしよう② (Section5) | 真似してみたいデザインを真似る → 持参したものを真似て、ページデザインを作成 (=課題②) | 模倣したいデザインを探して持参。用いられている手法を研究し、実践。 | |
| 第8回 最終課題 (雑誌風レイアウト1～2ページ) の手順説明。 | 課題②の提出。 | 課題②の制作。最終課題の企画案を考える。 | |
| 第9回 レイアウトをしよう (Section5) | 演習：最終課題用のラフコンテ作成 (=課題③) | 教科書の範囲の予習・復習。課題③の制作。 | |
| 第10回 ラフコンテの作成・提出 (課題③の提出) | | 商業誌のレイアウトを参考にコンテを作成 (課題③)。文字原稿用の情報収集 | |
| 第11回 最終課題のレイアウト化 (文字と画像は仮で可) | ダミーレイアウト提出 (課題④) | 必要に応じて、写真撮影・取材。ページレイアウト制作 (課題④) | |
| 第12回 最終課題の文字原稿執筆・提出 (課題⑤) | | 原稿執筆 (課題⑤) | |
| 第13回 原稿・レイアウト修正 (④⑤の添削結果を反映して修正し、画像と原稿をレイアウトに流し込む)、表紙・裏表紙制作開始。 | | 原稿修正、ページレイアウトの仕上げ (=課題⑥) | |
| 第14回 表紙・裏表紙の制作と最終課題の提出 (課題⑥) | | 課題⑥の制作 | |
| 第15回 小冊子化 (小冊子印刷) (課題⑦) | | 課題⑦の制作 | |
| 成績評価 | 割合 (%)、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | 0% | | |
| レポート | 70% (課題の合計) | | |
| 小テスト等 | 0% | | |
| 成果発表 | 0% | | |
| 受講態度他 | 30% | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ演習室1に入っているソフトウェア「InDesign」を使用します。コン演1を自習に使える時間帯は、情報メディア課で確認できます。 ・教科書は早めに入手してください。 ・全回出席を前提とし、毎回の課題で段階的に学んでいきます。課題の提出漏れがあると、次の課題に進めません。 ・課題制作や写真撮影など、授業時間外の学習も発生します。遅れた人は自習するなどして進度に追いつく努力が必要です。 | | |
| 教科書 | 柳田寛之、2011、『DTP 印刷 デザイン の基本』玄光社 | | |
| 指定図書 | なし | | |
| 参考図書 | 波多江 潤子『デザインの学校 これからはじめるInDesignの本 [CS6/CS5.5対応版]』技術評論社 | | |
| オフィスアワー | 火曜 12:30-14:00、水曜 11:00-12:30 | メールアドレス | |

| | | | | |
|-------------------------|---|---------------------------|------|----|
| 授業科目 | オタク文化論【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 小山 昌宏 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>1. サブカルチャーに発祥をもち、ポップカルチャーとともに隆盛したオタク文化について理解する オタクの心理的傾向、消費傾向、集団特性にみる若者のライフスタイルについて理解する</p> <p>2. 第1～5回は、おたくの定義、オタク文化に対する各論者の考え方を理解し、第6～8回は、戦後大衆文化の隆盛にあつてサブカルチャーの影響を受け独自に発展したオタク文化における若者のライフスタイルについて検討し、第9～15回は、第1～8回の理路、歴史、文化現象、時代背景、領域（ジャンル）について知識を得ることで、その内容を深く把握する</p> <p>3. 具体的には、講義後の配布資料、デジタル資料（筑女ネット）による復習、リアクションペーパーのまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解する</p> | | | |
| 到達目標 | <p>1. おたくの定義、オタク文化の形成、その発展から戦後日本文化への影響について説明ができる</p> <p>2. SF、同人誌、コスプレ、コミケ、アキバ系などから、オタク文化の特徴を理解し、そのカテゴリと内容について説明することができる</p> <p>3. サブカルチャーとサブカル、ポピュラーカルチャーとポップカルチャー、サブカルチャーとポップカルチャーの連続性と相違性において、オタク文化の位置づけを理解し、説明することができる</p> <p>4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、独自の「オタク像」「オタク文化観」を形成することができる</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) ②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | オタクとは何か？ ーサブカルチャーとしての御宅、おたく、オタク、ヲタク | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第2回 | 政治の終焉とおたくの発祥 ーポップカルチャーとしてのオタク文化 | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第3回 | 岡田斗司夫と大塚英志のオタク論 ーオタク第一世代の教養主義と歴史性 | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第4回 | 宮台真司と大澤真幸のオタク論 ーオタク文化が社会学に与えた影響とは？ | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第5回 | 斎藤環と東浩紀のオタク論 ーオタクのカテゴリ化と「ひきこもり」について | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第6回 | オタク文化と若者論 ーオタク青年のライフスタイルとライフサイクル | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第7回 | オタクのセクシャリティと消費文化 ーギャル文化に発するオタク・リア充とヲタク・非リア充の日常 | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第8回 | オタクの「場」と「街」の形成 ーアキバのメイド文化と中野ブロードウェイ・池袋乙女ロード | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第9回 | SF文化とオタク ーオタク文化の源流とSFマインド | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第10回 | 同人誌文化とオタク ーコミックマーケットと同人誌文化 | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第11回 | コスプレ文化とオタク ーコスプレイヤーとロリータの共通性と相違性 | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第12回 | オタク文化とキャラクター論 ーなぜ私たちはキャラクターを愛するのか | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第13回 | オタク文化とメディア論 ーメディアはオタクをどのように報道してきたのか | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第14回 | オタク女子・腐女子・夢女子論 ー「耽美」「やおい」「BL」を読む、読まないそのラインについて | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第15回 | まとめ 討論・報告会 | レポート作成準備をおこなう | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 70％（期末レポート） 20％（出席シート：リアクションペーパーの内容） | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 10％（15回 討論・報告会プレゼンの評価） | | | |
| 受講態度他 | 第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>1. 教科書はありません。レジュメ（配布資料）は各回配布いたします</p> <p>2. この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに質問にお応えします（復習）</p> <p>3. リアクションペーパーと振り返りによる学習効果を、期末レポート作成に活かします</p> | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 授業内で指示します | | | |
| オフィスアワー | 水曜日昼休み（12:20～13:00） | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|-----------------------------|------|----|
| 授業科目 | マンガ・アニメ論【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 小山 昌宏 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>1. アニメーションの発明から、日本で独自に発展した「アニメ」の原理、歴史、文化現象について理解する</p> <p>2. 第1回～2回にて、アニメーションの発明、その原理、発展の歴史について学び、第3～5回にて、戦後日本のアニメーションの両軸である「虫プロ」と「東映動画」の歴史、手塚治虫と宮崎駿に焦点をあて、第6～13回にて、アニメメディアの特性を課題別に検証することでアニメに関する基礎知識を身に付け、最後に第14～15回にて、メディアミックスの成功事例としての「うた☆プリ」と「デジタルアニメ」の可能性について理解する</p> <p>3. 具体的には、講義前の教科書による予習、講義を受けた後のデジタル「資料」による復習、リアクションペーパーまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解する</p> | | | |
| 到達目標 | <p>1. アニメーションの原理、その発展から日本のアニメーションへの変遷について説明することができる。</p> <p>2. アニメメディア、アニメ文化の概要について、説明することができる。</p> <p>3. アニメ文化が有する諸問題を発見し、それについて掘り下げ、考えることができ、その内容について報告ができる。</p> <p>4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、自分独自の「アニメ観」を形成することができる。</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 漫画と動画 -マンガとアニメーション 2つのメディアの共通性と相違性 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第2回 | マンガとアニメ -1950年以前の日本アニメーション史 「なまくら刀」から「トラちゃんのかんかん虫」まで | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第3回 | 手塚治虫とアニメーション -「虫プロのアニメ」化と実験アニメーション | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第4回 | 東映動画とアニメ -高畑勲「太陽の王子ホルスの大冒険」にみる「東洋のディズニー」の完成 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第5回 | 宮崎駿のアニメーション - 「かわいい」と「自然」の妙味が織りなす高揚感 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第6回 | 映像論 -アニメの映像機能を読む ～「細田守」から「吉浦康裕」作品まで ※ | 教科書を予習する（第2章：映像論） | | |
| 第7回 | アニメ史論 -撮影技術、演出、アニメ雑誌の影響について ※ | 教科書を予習する（第5章：歴史研究） | | |
| 第8回 | ジェンダー論 -アニメ・キャラクターの性の多様性 「白雪姫」から「草薙素子」へ ※ | 教科書を予習する（第3章：ジェンダー研究） | | |
| 第9回 | 音声論 -「音声」「音楽」「効果音」の役割について 「蒸気船ウィリー」から「頭文字D」まで ※ | 教科書を予習する（第4章：サウンド／ヴォイス研究） | | |
| 第10回 | 文学批評理論 -批評視点からアニメを読む 「うる星やつら」から「輪るピングドラム」まで ※ | 教科書を予習する（第1章：文学理論研究） | | |
| 第11回 | コンテンツ論 -劇場アニメ、早朝・昼間アニメ、深夜アニメのプロデュース方法について ※ | 教科書を予習する（第8章：コンテンツ研究） | | |
| 第12回 | 美学・芸術論 -美と汎美の差異について グリモ、新海誠から「まどか☆マギカ」へ ※ | 教科書を予習する（第7章：アート研究） | | |
| 第13回 | 視聴覚情報論 -映像情報はどのように伝わるのか ～「となりのトトロ」を題材にして ※ | 教科書を予習する（第9章：オーディオ・ビジュアル研究） | | |
| 第14回 | アニメ創造・制作論 -「うたの☆プリンスさまっ♪」の魅力を探る | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第15回 | アニメ創出過程論 -セルアニメからデジタルアニメ、2D、3Dアニメーションへの進化 | レポート作成準備 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 80％（期末レポート） 20％（出席シート：リアクションペーパーの内容） | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | なし | | | |
| 受講態度他 | 第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>1. 教科書を使用します。事前学習し授業にのぞむことを推奨します</p> <p>2. この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習）</p> <p>3. 第1～5、14～15回はレジュメを配布します。第6～13回は教科書を使用します（※表示）</p> <p>4. すべての授業の資料はPDFを筑女ネットにあげますので復習にやくだてることができます</p> | | | |
| 教科書 | 小山昌宏・須川亜紀子編『増補改訂版 アニメ研究入門』現代書館 | | | |
| 指定図書 | 米村みゆき・須川亜紀子編『アニメ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房 | | | |
| 参考図書 | 津堅信之『日本アニメーションの力—85年の歴史を貫く2つの軸』NTT出版／高橋光輝・津堅信之編『アニメ学』NTT出版 | | | |
| オフィスアワー | 水曜日昼休み（12:20～13:00） | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|---------------------------|------|----|
| 授業科目 | サブカルチャー論【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 小山 昌宏 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>1. ポピュラー文化における「サブカルチャー」分野について学ぶ。ポイントは、欧米で定義されるサブカルチャーが日本でいかに変容し、戦後日本文化において中心的な役割を担ってきたのか、その社会現象、歴史、文化について理解する</p> <p>2. 第1～3回は、サブカルチャーの定義、学説、歴史について、第4回は、サブカルチャーとアートとの関係、第5回～8回は、欧米のロックミュージック、日本のフォーク、ロックミュージックを視聴しつつ戦後大衆文化の歴史について学び、第9～15回は、各テーマ別にその内容を把握し、サブカルチャーの文化現象、時代背景、領域（ジャンル）について知識を得る</p> <p>3. 具体的には、講義後の配布資料、デジタル資料（筑女ネット）による復習、リアクションペーパーのまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解する</p> | | | |
| 到達目標 | <p>1. サブカルチャーの定義、サブカルチャーの形成、その発展から戦後日本文化への影響について説明ができる</p> <p>2. SF、フリークス、オカルト、ニューサイエンス、ニューメディアなど、サブカルチャーの категорияとその内容について説明することができる</p> <p>3. サブカルチャーとサブカル、ポピュラーカルチャーとポップカルチャー、サブカルチャーとポップカルチャーの連続性と相違性について理解し、説明ができ、報告することができる</p> <p>4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、独自の「サブカルチャー観」を形成することができる</p> | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>(3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | サブカルチャーとは何か？ -その定義、範疇、歴史の概要 | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第2回 | 日本における大衆文化の基礎形成 -江戸、明治、大正、昭和初期の繁華街と享楽街 | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第3回 | 非行文化と犯罪社会学 -モッズ、ロッカーズからアキバ系、ビジュアル系へ | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第4回 | サブカルチャーとアート -W.モリスからダリ、A.ウォーホルから現代アートへ | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第5回 | 欧米におけるロックミュージック -ドラッグとロックビジネス ビートルズからオアシスへ | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第6回 | アメリカにおけるヒッピー文化 -ウッドストックコンサート R、ヘブンスからジミ・ヘンドリックスまで | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第7回 | 日本におけるサブカルチャー① 60年代フォーク・ミュージック 岡林信康から吉田拓郎まで | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第8回 | 日本におけるポップカルチャー② 70年代ロック・ミュージック タイガースから山下達郎まで | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第9回 | 日本におけるアイドル文化 -80年代アイドル、秋元康、つくくの方法論 | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第10回 | スピリチュアルとオカルト -心霊現象、UFO、UMAになぜ人は惹かれるのか？ | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第11回 | フリークスとカルト -怪物、奇形、人造人間が反映する人心の闇について | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第12回 | 都市伝説とホラー -コンビニ・コミックにみる「噂」「デマ」「不安」の影響 | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第13回 | サブカルチャーとゲーム -アナログゲーム/デジタルゲームにおけるプレイヤーとは？ | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第14回 | 民俗学と特撮ドラマ -ウルトラマンシリーズにおけるキリスト教・仏教の影響とは？ | 配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習 | | |
| 第15回 | まとめ 報告会 | 報告会を受け、期末レポートの作成をおこなう | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 70％（期末レポート） 20％（出席シート：リアクションペーパーの内容） | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 10％（15回目の報告 or 討論の評価） | | | |
| 受講態度他 | 第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>1. 教科書はありません レジュメ（配布資料）は各回配布いたします</p> <p>2. この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに質問にお応えします（復習）</p> <p>3. リアクションペーパーと振り返りによる学習効果を、期末レポート作成に活かします</p> | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 授業内で指示します | | | |
| オフィスアワー | 水曜日昼休み（12:20～13:00） | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|-----------------------------|------|----|
| 授業科目 | 文化表象演習【演習】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 小山 昌宏 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 1. 現代にいたるマンガの画像分析、アニメの映像分析を軸に、映画鑑賞、アニメ鑑賞を通してその制作方法と技術、物語分析に関する基礎知識を身につけ、作品の画像、映像の解析ができる力量を身につける 2. 具体的には、講義と映像分析、演習（実習、討論、質疑応答）による授業進行をおこない、各授業毎のリアクションペーパー（復習：振り返り）を活かした確実な技法取得をめざす | | | |
| 到達目標 | 1. 慣れ親しんでいるマンガメディアに関する画像分析手法を身につけることができる 2. 同様にアニメメディアに関する映像分析手法を身につけることができる 3. 物語研究の基礎知識について身につけることができる 3. マンガメディアのアニメメディアへの変換によるメディアミックス手法、映像演出の差異について学び、物語構造、創造の実際に関与できる知識と力量を身につけることができる | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 絵巻物の読解 ～「鳥獣戯画」から「北斎漫画」まで、その読み解き方について学ぶ（講義） | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第2回 | マンガ表現読解 ～「正ちゃんの冒険」から「ジョジョ」まで、表現技法の進化と効果について学ぶ（講義） | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第3回 | マンガ技法分析 ～遠近法視点から「アマチュア作品」を読解する（講義） | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第4回 | マンガ表象分析 ～キャラの「かわいい」と「萌え」について考える ※討論 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第5回 | 映像表象分析 ～2つの「時をかける少女」 大林宣彦（映画）と細田守（アニメ）を読む（講義） | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第6回 | マンガ物語演習 ～羽海野チカ「冬のキリン」をドラマ化する ※実技と実演 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第7回 | アニメ映像分析（ポジショニングとモーション）～「まど☆マギ」「はたらく細胞」を題材に学ぶ ※講義と実習 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第8回 | アニメ楽曲分析（音楽の演出）～アニソン代表曲の魅力について学ぶ ※視聴と講義 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第9回 | アニメ声優・キャラクター分析 ～宮崎アニメ「俳優」の声の演技に学ぶ ※演習と講義 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第10回 | アニメコンテンツニューイティ分析 ～マンガ「スラムダンク」のアニメ演出について学ぶ ※実技と実演 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第11回 | アニメ映画鑑賞1-1 ～シルヴァン・ショメ「イリュージョニスト」鑑賞 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第12回 | アニメ映画分析1-2 ～シルヴァン・ショメ「イリュージョニスト」 ※討論 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第13回 | アニメ映画鑑賞2-1 ～原恵一「クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ！モーレツ大人帝国」鑑賞 | 報告会に向けたテーマ選定をおこなう | | |
| 第14回 | アニメ映画分析2-2 ～原恵一「クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ！モーレツ大人帝国」解析 ※討論 | 報告会に向けた準備をおこなう | | |
| 第15回 | まとめ 期末レポート概要・3分間スピーチ | 期末レポート作成をおこなう | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 0％ | | | |
| レポート | 70％（期末レポート）、10％（授業ごとのリアクションペーパー内容） | | | |
| 小テスト等 | 0％ | | | |
| 成果発表 | 10％（15回報告会のプレゼン） | | | |
| 受講態度他 | 10％（授業内でのセッションへの参加意欲、発言）を加味します | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 1. 教科書はありません 適宜プリントを配布します。講義以外に、実技、実演、実習、討論、報告を織り交ぜ、体感と体得を目的とします 2. 毎回、リアクションペーパー内容を活かし、要点整理の上、適宜授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習） 3. 第15回目は、期末レポート提出に向けた受講者のプレゼン（3分間スピーチ）をおこないます | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 授業内で指示する | | | |
| オフィスアワー | 水曜日昼休み（12:20～13:00） | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|-----------------------------|------|----|
| 授業科目 | 大衆文化史【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 小山 昌宏 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 1. 大衆文化史、主にマンガメディアの基礎知識、マンガ文化が時代、社会に与えた影響について理解する 2. 第1～3回は、マンガの定義、現在にいたる外観を、東西の古典的作品について歴史的意義とともに学び、第4～7回は、さらにテーマごとにその歴史を掘り下げ、第8～15回は、マンガ固有の現代的課題についてトピック別に解題する 3. 1・2により、マンガメディアの生成、マンガ文化の歴史、その概要に関する基礎知識を身につける 4. 具体的には、講義後のデジタル「資料」による復習、リアクションペーパーまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解する | | | |
| 到達目標 | 1. マンガの歴史、文化の概要、その発展から日本マンガへの発展について説明することができる 2. マンガメディア、マンガ文化の概要について説明することができる 3. マンガ文化が有する諸問題点を発見し、それについて掘り下げ、考えることができ、その内容について報告ができる 4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、自分独自の「マンガ観」を形成することができる | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | (3) ②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | マンガとは何か？ ～西欧コミックの源流から「アメコミ」まで | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第2回 | 「江戸漫画」から「明治漫画」へ ～近代日本漫画の成立と西欧諷刺精神について | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第3回 | 戦後サブカルチャーのマンガ史 ～「貸本マンガ」「ガロ」「COM」からSFの時代へ | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第4回 | 手塚治虫マンガ論 ～現代マンガに与えた手塚治虫の影響とは？ | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第5回 | マンガ雑誌・栄枯盛衰史 ～マンガ雑誌の市場占有率にみる消えたマンガ雑誌の推移 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第6回 | 少年ジャンプ論 ～ライバル誌を見据えた成功の仕組（コンセプト・専属契約・打ち切り） | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第7回 | ギャグ・パロディマンガ史 ～ユーモアマンガ・パロディマンガからギャグアニメへ | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第8回 | 恋愛マンガ論 ～あだち充「タッチ」・咲坂伊緒「アオハライド」にみる恋愛表象の変化 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第9回 | スポーツマンガ論 ～「巨人の星」「スラムダンク」「テニスの王子様」にみるスポーツ観の変化 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第10回 | 原発マンガ史 ～偽・手塚治虫「よみがえるジャングルの歌声」から、ももち麗子「デイジー」まで | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第11回 | マンガ論争論 ～マンガ表現の基準、表現規制の歴史、表現の自由について | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第12回 | マンガ図書館・ミュージアム論 ～その歴史、機能、役割について | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第13回 | マンガ著作権論 ～人格権と複製権：「トレース」「同人誌」「マンガ家と原作者」を視軸に | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第14回 | マンガ・メディアミックス論 ～ドラマ化の課題と電子コミックの未来 | 配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習 | | |
| 第15回 | マンガ産業論 ～コミックマネージメントの課題（佐藤秀峰「漫画貧乏」を読む） | 期末レポート作成準備 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 0％ | | | |
| レポート | 80％（期末レポート1回）、20％（授業毎のリアクションペーパー〈感想・質問：出席表〉）の内容を加味いたします | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | なし | | | |
| 受講態度他 | 第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 1. 教科書はありません。毎回レジュメ（プリント資料）を配布いたします。また授業内で使用する資料はデジタル資料（筑女ネット）にアップします 2. この授業では、リアクションペーパー内容について、適宜次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習） 3. 1・2により、最終報告会にいたる学習成果が、期末レポート作成に活かされます | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 小山昌宏・玉川博章・小池隆太編『マンガ研究13講』（水声社） 小山昌宏『戦後「日本マンガ」論争史』（現代書館） | | | |
| オフィスアワー | 水曜日昼休み（12:20～13:00） | メールアドレス | | |

| | | | |
|-------------------------|--|-------------------------------------|----|
| 授業科目 | 文化政策論【講義】 | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 須藤 遙子 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 現代における「文化」とは何かを、政治や経済との結びつきで考える。村おこしのような小さなものから、オリンピックのような国家規模のものまで、様々な文化政策について学ぶ。 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> レジュメやPPTを使つての発表・プレゼンテーションができる。 オリンピックや万博等を例に、国家政策における「文化」の位置付けを把握する。 地方自治体における文化行政について理解を深める。特にゆるキャラを使った観光行政に焦点を当てる。 | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | オリエンテーション。授業の進め方の説明。文化政策とは。 | 文化政策にはどのようなものがあるか考える。 | |
| 第2回 | 文化行政概説。分析方法説明。 | 分析する九州内の市町村を調べる。 | |
| 第3回 | 行政主催の文化活動。発表。 | 分析する九州内の市町村を調べる。 | |
| 第4回 | 市民主催の文化活動。発表。 | 分析する九州内の市町村を調べる。 | |
| 第5回 | 観光政策とゆるキャラ① 概説と分析方法説明。 | 分析する九州内の観光地を調べ、PPT・レジュメを作る。 | |
| 第6回 | 観光政策とゆるキャラ② レジュメを配布しての発表。 | 復習と引き続きPPT・レジュメ作り。 | |
| 第7回 | 観光政策とゆるキャラ③ 引き続きレジュメを配布しての発表。 | 復習。 | |
| 第8回 | 「聖地巡礼」と文化行政① 概説と分析方法説明。 | 分析する「聖地」について調べ、PPT・レジュメを作る。 | |
| 第9回 | 「聖地巡礼」と文化行政② 発表。 | 分析する「聖地」について調べ、PPT・レジュメを作る。 | |
| 第10回 | 「聖地巡礼」と文化行政③ 引き続き発表。 | 万博について調べる。 | |
| 第11回 | 万博の歴史と役割。 | オリンピックについて調べる。 | |
| 第12回 | 【特別授業】文化政策としての労働政策：進路支援課就活イベント参加 | 就活準備を進めると同時に「リクルート」と国の労働政策との関連を考える。 | |
| 第13回 | 東京オリンピック1964。 | 2020年の東京オリンピックについて調べる。 | |
| 第14回 | 東京オリンピック2020。 | 復習。 | |
| 第15回 | まとめ | 復習。 | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | 0％ | | |
| レポート | 50％ | | |
| 小テスト等 | 0％ | | |
| 成果発表 | 40％ | | |
| 受講態度他 | 10％ | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>受講者の人数を見て、個人発表かグループワークかを決定します。</p> <p>授業内の私語・スマートフォン使用厳禁。対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止とします。用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに直接話しにきてください。</p> <p>授業に関連する講演会・イベントなどが学内で開催される場合は、シラバスを変更して参加する場合がありますので承のこ。その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。</p> | | |
| 教科書 | なし。適宜プリントを配布します。 | | |
| 指定図書 | なし。 | | |
| 参考図書 | その都度、指定します。 | | |
| オフィスアワー | 月曜昼休み。 | メールアドレス | |

| | | | | |
|-------------------------|---|-------------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 文化産業論【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 須藤 遙子 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 文化経済概念をもとに、メディア企業やコンテンツ産業の現状を学ぶ。メディア企業をはじめ企画・宣伝への就職を希望する学生を念頭に、グループワークにより文化産業のターゲットやイベント展開を分析する。また、毎回講義内容とは別に、自分が体験した文化産業イベントを順番に発表してもらいます。 | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化産業の現状を理解すると同時に、「文化」という概念が批判的に考察できる。 ・国家政策における「文化」の位置付けを把握する。 ・フランクフルト学派の理論などから、ポピュラー文化の政治性について考える。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身につけている。 この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | オリエンテーション。授業の進め方の説明。 | 文化産業にはどのようなものがあるか考える。 | | |
| 第2回 | 映画産業分析の手法概説・グループ分け。 | これまで観た映画について考える。 | | |
| 第3回 | 映画産業分析1。グループ討論。各グループで映画作品の一つ決めて、分析を行う。 | グループで決定した映画を各自分析してくる。 | | |
| 第4回 | 映画産業分析2。グループ発表。 | 映画産業についての分析レポート。 | | |
| 第5回 | 音楽産業・音楽イベント分析の手法概説・グループ分け。 | これまで体験した音楽産業・音楽イベントについて考える。 | | |
| 第6回 | 音楽産業分析1。グループ討論。各グループで映画作品の一つ決めて、分析を行う。 | グループで決定した音楽イベント等を各自分析してくる。 | | |
| 第7回 | 音楽産業分析2。グループ発表。 | 音楽産業についての分析レポート。 | | |
| 第8回 | ゲーム・インターネット産業分析の手法概説・グループ分け。 | これまで体験したゲーム・インターネットコンテンツについて考える。 | | |
| 第9回 | ゲーム・インターネット産業分析1。グループ討論。各グループで映画作品の一つ決めて、分析を行う。 | グループで決定したゲーム・インターネットコンテンツを各自分析してくる。 | | |
| 第10回 | ゲーム・インターネット産業分析2。グループ発表。 | ゲーム・インターネット産業についての分析レポート。 | | |
| 第11回 | NHKスタジオ見学。メディア文化産業としてのテレビ産業を考察する。 | 見学レポート。 | | |
| 第12回 | 西日本新聞見学。メディア文化産業としての新聞産業を考察する。 | 見学レポート。 | | |
| 第13回 | コンテンツ産業政策1：日本 | 日本のコンテンツ産業政策を復習。 | | |
| 第14回 | コンテンツ産業政策2：諸外国 | 諸外国のコンテンツ産業政策を復習。 | | |
| 第15回 | まとめ | 復習。 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | ー | | | |
| レポート | 70％（テーマごとにミニレポートを書いていただきます） | | | |
| 小テスト等 | 0％ | | | |
| 成果発表 | 0％ | | | |
| 受講態度他 | 30％（グループ討論への参加態度を重視します） | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 第11回と第12回に予定しているNHKと西日本新聞の見学は、先方との日程調整があるためシラバスが前後する可能性が高いです。授業での告知をよく確認のうえ、シラバス変更を了承のこと。対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止とします。用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに直接話しにきてください。学内で授業に関連する講演会・イベントが開催される場合、シラバスを変更して参加する場合がありますので了承のこと。 | | | |
| 教科書 | なし。適宜プリントを配布します。 | | | |
| 指定図書 | なし。 | | | |
| 参考図書 | その都度、指定します。 | | | |
| オフィスアワー | 月曜昼休み。 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|-------------------------------|------|----|
| 授業科目 | メディア倫理（法含む）【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 須藤 遙子 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | メディア側の取材・報道姿勢を学ぶと同時に、民主主義を担う受け手側の市民意識についても考える。メディアはどのように報道すべきかを考え、また受け手としてのメディア・リテラシーも同時に身につけていく。ディスカッションにより、自分の考えを深め表現するスキルを磨く。 | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・メディアによる報道を批判的に受容できる。 ・自分の考えを論理的に展開し、発表ができる。 ・他人の発表に対し、的確なコメントが言える。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | オリエンテーション。授業の進め方の説明。 | NHKニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第2回 | メディアをとりまく法制 | 民放（キー局）ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第3回 | 虚偽・捏造報道（1）新聞における有名事件 | 民放（地方局）ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第4回 | 虚偽・捏造報道（2）テレビにおける「やらせ」とは | 朝日新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第5回 | 虚偽・捏造報道（3）テレビにおける有名事件 | 産経新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第6回 | 戦争報道（1）戦争における報道の特徴・問題点 | 読売新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第7回 | 戦争報道（2）マスコミの役割と影響力 | 毎日新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第8回 | 戦争報道（3）北朝鮮ミサイル問題 | 日経新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第9回 | SNS（1）発信・受信の容易さの問題 | Yahooニュースを見て、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第10回 | SNS（2）フェイクニュースとは | LINEニュースを見て、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第11回 | SNS（3）慰安婦報道 | テレビ局ネットサイトを見て、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第12回 | 私企業としての□マスコミ | 新聞社ネットサイトを見て、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第13回 | 政治との関連 | 通信社ネットサイトを見て、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第14回 | 表現の自由とは：憲法をふまえて | メディアの違いに注目しながら、取材・報道姿勢を考える。 | | |
| 第15回 | まとめ | 復習。 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | ％ | | | |
| レポート | 70％（小レポート） | | | |
| 小テスト等 | ％ | | | |
| 成果発表 | ％ | | | |
| 受講態度他 | 30％ | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 授業内の私語・スマートフォン使用厳禁。対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止とします。用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに直接話しにきてください。毎回気になった今週のニュースを順番に発表してもらいます。 | | | |
| 教科書 | なし。適宜プリントを配布します。 | | | |
| 指定図書 | なし。 | | | |
| 参考図書 | 必要な場合は、授業内で指示します。 | | | |
| オフィスアワー | 金曜日昼休み。 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|-------------------|------|----|
| 授業科目 | メディアリテラシー演習【演習】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 須藤 遙子 | | 単 位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | この講義では、テレビと新聞という二大マスメディアの分析を通じて、情報リテラシーを身につける。調査・分析能力、プレゼンテーション能力を高める。課題とは別に、全員に1回「今週の気になったニュース」を発表してもらいます。 | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分で問題を設定し、的確な方法で分析ができる。 ・プレゼンテーション能力が身につく。 ・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。 ・テレビ局や新聞社の特性による情報の違いを理解する。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | | |
| 授業計画 | 授 業 内 容 | 授 業 外 学 修 など | | |
| 第1回 | オリエンテーション。授業の進め方の説明。 | 新聞、テレビのニュースに目を通す。 | | |
| 第2回 | ニュース番組① 分析方法説明、グループ分け。 | グループで決めた番組分析。 | | |
| 第3回 | ニュース番組② グループ分析、発表。 | 分析レポートまとめ。 | | |
| 第4回 | 娯楽番組① 分析方法説明、グループ分け。 | グループで決めた番組分析。 | | |
| 第5回 | 娯楽番組② グループ分析。 | グループで決めた番組分析。 | | |
| 第6回 | 娯楽番組③ グループ発表。 | 分析レポートまとめ。 | | |
| 第7回 | 新聞① 各自持ってきた新聞を使用しての概説。グループ分け。 | 新聞の構造、内容を理解する。 | | |
| 第8回 | 新聞② 明治から終戦までの新聞分析、発表。 場所：プレゼンテーションコート | 図書館での復習。 | | |
| 第9回 | 新聞③ 戦後から70年代末までの新聞分析、発表。 場所：プレゼンテーションコート | 図書館での復習。 | | |
| 第10回 | 新聞④ 80年代から90年代末までの新聞分析、発表。 場所：プレゼンテーションコート | 図書館での復習。 | | |
| 第11回 | 新聞⑤ 9.11、3.11、熊本地震の新聞分析、発表。 場所：プレゼンテーションコート。 | 分析レポートまとめ。 | | |
| 第12回 | 【特別授業】朝日新聞データベースの使い方 講師：朝日新聞東京本社デジタル本部コンテンツ事業部担当者 | 自宅での復習。 | | |
| 第13回 | インターネット① グループ分け、新聞社ホームページ分析、発表。 | 自宅での復習。 | | |
| 第14回 | インターネット② テレビ局ホームページ分析、発表。 | 分析レポートまとめ。 | | |
| 第15回 | まとめ。 | 復習。 | | |
| 成績評価 | 割 合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | ％ | | | |
| レポート | 40％ | | | |
| 小テスト等 | ％ | | | |
| 成果発表 | 40％（課題への取り組み、発表者としてのスキル） | | | |
| 受講態度他 | 20％ | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 受講生数によって、グループワークか個人発表か決定する。いずれの場合も、出席・遅刻の回数は、評価に大きく影響する。新聞社による特別授業の日程は変更の可能性が高いので、授業内の指示を確認のこと。また、学内で授業に関連する講演会などが開催される場合、シラバスを変更して参加することもあるので了承のこと。対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止とします。用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに直接話しにきてください。 | | | |
| 教科書 | なし。適宜プリントを配布します。 | | | |
| 指定図書 | なし。 | | | |
| 参考図書 | その都度、指定します。 | | | |
| オフィスアワー | 金曜日昼休み。 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|-----------------------------|------|----|
| 授業科目 | 広告論【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 須藤 遙子 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | テレビCMや企業サイトを通じて、映像メディアやインターネットメディア広告の特徴を学ぶ。グループでの討論をしながら、チームワークにおけるコミュニケーションスキルを高める。「消費社会」に対する批判的な視点を養う。 | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・メディアの特性による情報の違いを理解する。 ・チームワークを円滑に進めるための的確な役割分担や積極的な発言ができる。 ・プレゼンテーション能力を身につける。 ・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | オリエンテーション。授業の進め方の説明。 | 気になるテレビCMや企業サイトをチェックする。 | | |
| 第2回 | テレビCM（1）概説、分析方法。 | 気になるテレビCMをチェックする。 | | |
| 第3回 | テレビCM（2）グループ分け、テーマ決め、グループ討論。 | グループで決めたテレビCMを分析し、討論用にメモする。 | | |
| 第4回 | テレビCM（3）グループ討論、発表内容決定。 | 発表準備。 | | |
| 第5回 | テレビCM（4）グループ発表、コメント。 | テレビCM分析復習。小レポート。 | | |
| 第6回 | インターネット企業サイト（1）概説、分析方法。 | 気になる企業サイトをチェックする。 | | |
| 第7回 | インターネット企業サイト（2）グループ分け、テーマ決め、グループ討論。 | グループで決めたテレビCMを分析し、討論用にメモする。 | | |
| 第8回 | インターネット企業サイト（3）グループ討論、発表内容決定。 | 発表準備。 | | |
| 第9回 | インターネット企業サイト（4）グループ発表、コメント。 | 企業サイト分析復習。レポート。 | | |
| 第10回 | 雑誌広告（1）概説、分析方法。グループ分け、テーマ決め、グループ討論。 | 雑誌広告をチェックする。発表準備。 | | |
| 第11回 | 雑誌広告（2）グループ発表、コメント。 | 雑誌広告分析復習。小レポート。 | | |
| 第12回 | 新聞広告（1）概説、分析方法。グループ分け、テーマ決め、グループ討論。 | 新聞広告をチェックする。発表準備。 | | |
| 第13回 | 新聞広告（2）グループ発表、コメント。 | 新聞広告分析復習。小レポート。 | | |
| 第14回 | 現代の広告について概説、全体討論。 | これまでの授業をふまえて広告の役割について考察する。 | | |
| 第15回 | まとめ。 | 復習。 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 0％ | | | |
| レポート | 50％ | | | |
| 小テスト等 | 0％ | | | |
| 成果発表 | 30％（グループでの参加度、発表者としてのスキル） | | | |
| 受講態度他 | 20％（全体討論への参加態度も含める） | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>受講数によって、グループワークか個人発表かを決定する。いずれの場合も、出席・遅刻の回数は、評価に大きく影響する。</p> <p>授業内の私語・スマートフォン使用厳禁。</p> <p>対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止とします。用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに直接話しにきてください。</p> <p>また、学内で授業に関連する講演会などが開催される場合、シラバスを変更して参加することもあるので了承のこと。</p> | | | |
| 教科書 | なし。適宜プリントを配布します。 | | | |
| 指定図書 | なし。 | | | |
| 参考図書 | その都度、指定します。 | | | |
| オフィスアワー | 月曜昼休み。 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|---------------|------|----|
| 授業科目 | 居住福祉論【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 安恒 万記 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>住まいは厳しい自然や社会的環境から生命の安全を守る基盤であり、人々の健康や子どもの発達、家族の生活や高齢者の福祉を支えるものです。本講義では、子ども、高齢者、障がい者といった住居の状態から最も影響を受けやすい人たちの住環境に潜む問題を探り、よりよい住まいとまちのあり方を考察します。「福祉住環境コーディネーター」資格に挑戦するための足がかりとなるよう、建築や都市に関する基礎知識の習得を目指します。</p> | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築や都市について専門用語を用いて説明することができる。 2. 様々な状態にある人と住まいやまちの現状を分析することができる。 3. 住まいやまちの課題を福祉的視点で説明することができる。 4. 居住福祉の課題の解決に向けて自ら考え、創造することができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は都市・地方計画設計関係企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 居住福祉とは…生命の安全と健康を守る住まい | 情報の整理 | | |
| 第2回 | 住まいやまちに関する基礎知識 | 情報の整理 | | |
| 第3回 | 子どもと住環境①…子どもの発達と住まい | 社会の問題の抽出 | | |
| 第4回 | 子どもと住環境②…子どもの遊びと住環境 | 社会の問題の抽出 | | |
| 第5回 | 高齢者と住環境①…住み続ける家 | 社会の問題の抽出 | | |
| 第6回 | 高齢者と住環境②…地域で暮らす | 社会の問題の抽出 | | |
| 第7回 | 高齢者と住環境③…老人福祉法と高齢者施設 | 社会の問題の抽出 | | |
| 第8回 | 障がい者と住環境①…ノーマライゼーションって何？ | 社会の問題の抽出 | | |
| 第9回 | 障がい者と住環境②…バリアフリーとユニバーサルデザイン | 課題②（社会の問題の抽出） | | |
| 第10回 | 住宅政策と居住福祉①…最低居住水準って何？ | まちの観察と体験 | | |
| 第11回 | 住宅政策と居住福祉②…介護保険と住宅改造 | まちの観察と体験 | | |
| 第12回 | 住宅政策と居住福祉③…住宅改造事例（グループワーク） | まちの観察と体験 | | |
| 第13回 | まちづくりと居住福祉①…ユニバーサルデザイン（グループワーク） | まちの観察と体験 | | |
| 第14回 | まちづくりと居住福祉②…歩車分離と歩車共存 | まちの観察と体験 | | |
| 第15回 | まとめ | まとめ | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 85% | | | |
| レポート | — | | | |
| 小テスト等 | — | | | |
| 成果発表 | — | | | |
| 受講態度他 | 15% 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。</p> <p>図面プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。</p> | | | |
| 教科書 | プリント配布 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 授業の中で適宜紹介 | | | |
| オフィスアワー | 木曜日 9:10～12:20 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|-------------------------|------|----|
| 授業科目 | 住環境デザイン演習【演習】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 安恒 万記 | | 単 位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 本演習は、住環境に関わるフィールドワークの基礎を学び、住環境デザインの基本的な考え方、手法、技術を習得することを目的としています。環境負荷の少ない住環境形成、子どもの成長発達を支える住まい、身近な自然とのふれあい、ノーマライゼーションの配慮、などをテーマに対象フィールドを具体的に設定して課題を分析し、整備計画を考えます。 | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. フィールドサーヴェイを通して住環境を読み取ることができる。 2. 生活のニーズと住環境の課題を見出すことができる。 3. 住要求に合わせた住環境デザインを創造することができる。 4. 効果的なプレゼンテーションができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 この科目は都市・地方計画設計関係企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | | |
| 授業計画 | 授 業 内 容 | 授 業 外 学 修 など | | |
| 第1回 | オリエンテーション | テーマを考える | | |
| 第2回 | 課題A：住宅のデザイン | 住要求を整理する | | |
| 第3回 | 敷地を読む | 復習とまとめ | | |
| 第4回 | 機能を考える | 情報収集と整理 | | |
| 第5回 | 細部を考える | 情報収集と整理 | | |
| 第6回 | プレゼンテーション | 発表準備 | | |
| 第7回 | 課題B：住宅のリノベーション | 住要求を整理する | | |
| 第8回 | 機能を考える | 情報収集と整理 | | |
| 第9回 | 細部を考える | 情報収集と整理 | | |
| 第10回 | インテリアデザイン | 情報収集と整理 | | |
| 第11回 | CAD演習① | 課題の自習 | | |
| 第12回 | CAD演習② | 課題の自習（筑女ネットを使用して図面チェック） | | |
| 第13回 | CAD演習③ | 課題の自習（筑女ネットを使用して図面チェック） | | |
| 第14回 | プレゼンテーション | 発表準備（筑女ネットを使用してPPT資料準備） | | |
| 第15回 | まとめ | 振り返りと修正案を考える | | |
| 成績評価 | 割 合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 0% | | | |
| レポート | 0% | | | |
| 小テスト等 | 0% | | | |
| 成果発表 | 50% | | | |
| 受講態度他 | 50% | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 遅刻・欠席をしないよう心がけてください。自発的な学習と自習が必要です。各自が責任を持って授業に参加してください。 | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 授業の中で適宜紹介します。 | | | |
| オフィスアワー | 木曜日 9：10～12：20 | メールアドレス | | |

| | | | |
|-------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目 | 子どもと環境【講義】 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 安恒 万記 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>未来を担う子どもたちが心身ともに健康に育つことができる環境を保障することは社会の責任です。「子どもと環境」では、子どもの育つ環境を総合的に見つめ、住環境を中心に子どもの成育環境の問題を探り、そのあり方を考えます。さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を深く理解し、豊かな成育環境の実現に向けて自ら考え、創意工夫する力を養うことを目的とします。</p> <p>授業は講義を中心に、DVDなどによる映像も使用しながら、子どもの成育環境の問題を探ります。</p> | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成育環境を総合的に説明することができる。 2. さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を分析することができる。 3. 子どもの成育環境における課題の解決に向けて自ら考え、取り組むことができる。 | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は都市・地方計画設計関係企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | 子どもと環境について | 情報の整理 | |
| 第2回 | 子どもの家庭環境～変化する家族形態（グループワーク） | 家族形態について調べる | |
| 第3回 | 子どもの成長と発達 | 社会の問題を調べる | |
| 第4回 | 子どもの虐待—その背景（グループワーク） | 虐待について調べる | |
| 第5回 | 子育て支援 | 社会の問題を考える | |
| 第6回 | 子どもと住まい | 住宅について調べる | |
| 第7回 | 子どもとまち～地域で育つ | まちの問題を考える | |
| 第8回 | 子どもの遊び環境～遊びのサンマ | 子どもの遊びを考える | |
| 第9回 | 子どもと自然 | 自然環境について考える | |
| 第10回 | 子どもと環境教育～ドイツの事例 | 事例収集 | |
| 第11回 | ドイツ森の幼稚園 | 事例収集 | |
| 第12回 | ビオトープ | 事例収集 | |
| 第13回 | プレイパーク | 事例収集 | |
| 第14回 | パークマネジメント | 事例収集 | |
| 第15回 | まとめ | 子どもの環境についての課題の整理 | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | 85% | | |
| レポート | 0% | | |
| 小テスト等 | 0% | | |
| 成果発表 | 0% | | |
| 受講態度他 | 15% 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。 | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。配布プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。 | | |
| 教科書 | プリントを配布します | | |
| 指定図書 | なし | | |
| 参考図書 | 授業の中で適宜紹介します | | |
| オフィスアワー | 木曜日 9:10～12:20 | メールアドレス | |